宝塚市の人口分析

―― 宝塚市の調査研究の一節 ――

大道安次郎

(一)

都市はいろいろな角度からとらえることができるが，人間が集って生活をともにしているという事実だけは否定できないであろう。だが人間が集って生活をともにしているということは，何も都市だけに限ったことではなく，農村の場合にも見られる。とすると，都市と農村とを区別するものは何であろうか。その区別はいろいろな点から可能であるが，人間の集まりには量と質とがあるということに着目することによっても可能である。ここで人間の集まりの量というのは人口数が多いか少ないかということを意味し，質というのは人口構成が同質的か異質的かということを意味している。わが国の普通地方公共体が市制を施行する際の要件として地方自治法第8条第1項がつぎのような各号をあげているのも，この人口の量と質とに着目してのことであるといえる。

1. 人口5万以上を有すること。
2. 当該普通地方公共団体の中心の市街地を形成している区域内に在る戸数が，全戸数の6割以上であること。
3. 商工業その他の都市的業態に従事する者及びその者と同一世帯に属する者の数が，全人口の6割以上であること。
4. 前各号に定めるものの外，当該都道府県の条例で定める都市的施設その他の都市としての要件を具えていること。

このように地方自治法でも人口数がある程度多いということと商工業など第二次，第三次産業に従事している人口が多いということを，市としての条件としているのである。これは明らかに人口の量と質とに着目しての区別といえる。

だが注意しなければならないことは，ここで規定されている人口の数はいわゆる「夜間人口」を基準としているということである。それは国勢調査によってとらえられた人口のことであって，そこに住んでいる人間の数のことである。それは「常住人口」のことであり，いわば「寝ている状態」における人間の数のことである。一定の広がりを持った地域での人間の数を，ある程度の正確さをもってとらえようとするならば，国勢調査のような方法しかないかも知れない。しかし都市の人口はこのような夜間人口のみからでは明らかにされない。というのは都市の人口が農村の人口と違うことのひとつは，その人口が絶えず「動いている」というところにある。もちろん農村でも自然増や自然減もあるし，転出，転入もある。また流入も流出もある。しかし都市ではこうした「動き」が甚だしいのである。この「動き」の一面がその流動性によく現われている。この人口の流動性には同一都市内部で流動する場合と外部への流出，外部からの流入の場合がある。この流動性は都市度を示すひとつの指標といえるが，同一市内での流動性は夜間人口の数に影響を与えないが，市内から外部への流出と外部から市内への流入は影響する。このような区別はあるとしても，いずれも都市人口の流動性を現わしている。このように流動している人口は「起きている状態」における都市人口といえる。「夜間人口」に対して「昼間人口」といえよう。

ところで昼間人口は，流出が多くて流入が少ない場合もあるし，その逆の場合もある。前者の場合は大都市周辺の都市に多く見られるし，後者の場合は大都市に見られる。

大都市での昼間人口は夜間人口よりも多く，大都市周辺の都市の夜間人口は昼間人口よりも多いのが普通である。そして昼間人口が夜間人口より

も多く，その差が甚だしければ甚だしいほど都市性が高いといえる。このように見てくると，都市の人口を語る場合，単に夜間人口のみを語ることに終始せずに，昼間人口についても考慮を払う必要があろう。

私は本稿において宝塚市の人口現象について考察しようとしているが，この際都市人口には夜間人口と昼間人口の二つの側面があるということを念頭におきたい。そこで当然私の考察は宝塚市の夜間人口の考察と昼間人口の考察とに分かれることになる。

(二)

まず宝塚市の夜間人口（常住人口）からはじめよう。その際，市全体の人口，人口密度，人口構成（性比，年令構成，職業別構成など），世帯人数などについて調べることは当然であるが，つぎのようなことも考慮に入れておく必要がある。その一つは，時間的要素をかみ合せることである。というのは，いずれの都市人口も絶えず増減が見られるから，その増減の跡づけが必要であるからである。宝塚市の人口動態（自然動態と社会動態）を時間的系列のもとに明らかにすることが要求されよう。人口動態という場合，一年間の動きだけに限っているのが普通であるが，私はさらにそれを過去数年間にわたっても見る必要があると考えている。

その二は，空間的要素をかみ合せることである。或る都市の人口が仮りに10万といっても，その10万が市全域にわたって平均して散在しているのではなく，むしろ或る地区では多く，他の地区では少ないのが普通である。これを人口動態とからませてみると，或る地区の人口は急増しているが，他の地区では必ずしもそうではない。むしろ減少している場合もある。このような人口動態を地域性にからませて明らかにすることも必要であろう。この時間，空間の視点のほかに，さらに第三として，宝塚市に転入してくる人口の階層性についても注意を払う必要がある。というのは，宝塚市の人口は増加の一途を辿っているが，この転入してくる人口は如何なる階層に属しているかを明らかにすることは，宝塚市の性格をうかがううえからも必要なことであるからである。その四は宝塚市の人口現象において見られるひとつの特徴は，外国人がかなり住んでいるということと沖縄出身者も多いということである。このことについても触れておく必要があろう。その五は，市全体の人口重心が何処にあるかを明らかにすることである。人口重心は絶えず移動している。その移動の跡をさぐることによって，宝塚市の人口姿勢がうかがえるからである。

以上のことがらは，人口現象の分析を通して宝塚市の性格を明らかにするために必要なものであるが，さらにそれらを他の都市と比較することも忘れてはならない。これは宝塚市の人口現象の特徴をきわ立たすことに役立つであろう。

宝塚市の常住人口（夜間人口）

宝塚市は昭和29年4月1日に兵庫県武庫郡良元村と宝塚町が合併して，市制を施行した。その時点での人口(住民登録人口)は40,579人，男19,450人，女21,129人（性比92.3%），世帯数 9,712，一世帯当り人員は 4.2人，人口密度 1,434であった。

ところが宝塚市は昭和30年4月1日長尾村（その一部は伊丹市へ編入）と西谷村とが合併し，現在の市となった。その時点での人口（住民登録人口）は，54,286人，男26,125人，女28,161人（性比92.8%），世帯数12,722，一世帯当り人員4.5人人口密度は533であった。

ここで注意しておきたいことは，一世帯当り人員が 4.2 より 4.5 に増えたことと，人口密度が 1,434 から 533 に減ったことについてである。都市化が進めば世帯構成員が減少し，また人口密度が増えるというのが，一般的傾向であるのに，その逆の傾向を示しているからである。昭和29年4月1日の場合は，良元村でも宝塚町でも，農村的色彩があったとしても，かなり都市化が進んでいた。ところが昭和30年4月1日に合併した長尾村と西谷村のうち，西谷村はとくにかなり都市化がおくれており，農村的色彩が濃かった。そのうえ西谷村の地域はほかの地域と比べると，それらの合計の約2倍にあたるばかりでなく，人口も少ない。こうしたことから人口密度のうえにも，また一世帯当り人員についても，市全体として見れば，かなりな変動が生じたわけである。

ところで，宝塚市の人口は昭和38年10月20日には8万人に達し，昭和40年5月6日には9万人，そして10万人を突破したのは昭和42年1月27日のことである。その後も増加の一途を辿り，昭和43年度中には11万人を軽く突破するであろう。それは昭和40年宝塚市建設審議会が宝塚市基本計画作製を試みた際に予測した人口増加率をかなり上回っている。この際の予測はつぎの第1表のようなものであった（この推計は関西学院大学金子精次教授の手によって行われたものである）。

第1表　　推　計　人　口　　（最小2乗法による。）

	年	時間検算値	実際人口						理論人口	実際人口との差
n		x (1)	y (2)	x^2 (3)	xy (4)	x^3 (5)	x^4 (6)	x^2y (7)	ax^2+bx+c (8)	(2)−(8)
1	30	−4	55,084	16	-220,336	−64	256	881,344	56,050.33	− 966.33
2	31	−3	58,995	9	-176,985	−27	81	530,955	57,983.54	1,011.46
3	32	−2	60,454	4	-120,908	− 8	16	241,816	60,193.71	260.29
4	33	−1	62,791	1	− 62,791	− 1	1	62,791	62,685.70	105.30
5	34	0	66,524	0	0	0	0	0	65,459.50	1,064.50
6	35	1	66,973	1	66,973	1	1	66,973	68,515.11	−1,542.11
7	36	2	71,086	4	142,172	8	16	284,344	71,852.55	− 766.55
8	37	3	75,974	9	227,922	27	81	683,766	75,471.80	502.20
9	38	4	79,709	16	318,836	64	256	1,275,344	79,372.87	336.13
10	39	5		25		125	625		83,555.75	
11	40	6		36		216	1,296		88,020,45	
12	41	7		49		343	2,401		92,766.96	
13	42	8		64		512	4,096		97,795.29	
14	43	9		81		729	6,561		103,105.44	
15	44	10		100		1,000	10,000		108,697.40	
16	45	11		121		1,331	14,641		114,671.18	
17	46	12		144					120,726.60	
18	47	13		169					127,165.17	
19	48	14		169					133,884.57	
20	49	15		225					140,885,80	
21	50	16		256					148,327.31	
Σ		0	597,590	60	174,883	0	708	4,027,333		
		S_1	S_2	S_3	S_4	S_5	S_6	S_7		

最小2乗法（2次放物線）

$$y = ax^2 + bx + c$$

$$S_1 = S_5 = 0$$

$$a = \frac{S_2 S_3 - n S_7}{S_3^2 - n S_6}$$

$$b = \frac{S_4}{S_3}$$

$$c = \frac{S_3 S_7 - S_2 S_6}{S_3^2 - n S_6}$$

この予測と実際に増加を示した数字との間に若干の差が見られる。予測はたとえショート・ランの場合でも必ずしも現実の動きと完全に一致しないものであること，予測なり推計なりはあくまで予測・推計の域にとどまるものであることを如実に示しているわけである。

つぎの第2表は実際の人口の増加を示したものであり，第1図は両者を比較したものである。

ところで，この宝塚市の人口推移を近隣の都市のそれと比較してみると，第3表，第2図に見られるようなものになる。

第3表によってみると，猪名川町を除き，ほかの6市は全部増えている。昭和30年から昭和35年までの5年間を見てみると，一番増加しているのは，25.3%も増えた伊丹市，第2位はほぼ同じ増え方24.9%を示している西宮市，第3位は21パーセントの尼崎市，第4位は20.7%の宝塚市，第5位は19.2%の川西市，第6位は12%の芦屋市となっている。猪名川町だけは6%の減少を示している。

第2表　宝塚市の人口推移（毎年12月末現在）

年度	人口	備考
29. 4 .1	40,579	宝塚町、良元村合併、住民登録人口による。
30. 4 .1	54,286	長尾村、西谷村合併後長尾村の一部伊丹市へ編入住民登録人口による。
30.10.1	55,084	第8回国勢調査
30.	57,000	住民登録人口
31.	58,933	〃
32.	60,454	〃
33.	62,791	〃
34.	66,524	〃
35.10.1	66,491	第9回国勢調査
35.	66,973	推計人口
36.	71,086	〃
37.	75,974	〃
38.	81,714	〃
39.	87,895	〃
40.10.1	91,486	第10回国勢調査
40.	92,616	推計人口
41.	99,485	〃
42.	105,876	〃

（昭和38年10月20日8万人、昭和40年5月6日9万人昭和42年1月27日10万人突破）

また昭和35年から昭和40年までの5年間の推移を見てみると，第1位は46.2%の川西市，第2位は40.4%の伊丹市，第3位は37.6%の宝塚市，第4位は28.3%の西宮市，第5位は23.4%の尼崎市第6位は10.8%の芦屋市である。猪名川町は2%の減少を示している。これを前回の5年間を比べてみると，全体としては増加率が21.5%から27.4%と増えてはいるが，芦屋市の12%から10.8%と落ちているのを除き，ほかの市はことごとく上昇している。とくに注目されるのは，19.2%から46.2%と急増した川西市，25.3%から40.4%と増した伊丹市，20.7%から37.6%と増加した宝塚市の3市である。芦屋市の増加率が鈍化したことは市域が限られていることにも原因していると考えられるし，また転入者が比較的ハイクラスに属することにも起因していると思われる。川西市の増加率が急増したことは，大阪市への通勤者が次第に周辺部へ周辺部へと住宅を求めて拡がっていることを如実に語っている。大都市の住宅問題の皺寄せの結果である。同じことは伊丹市などほかの都市についてもいえる。結局昭和30年から昭和40年までの10年間に阪神6市1町では46.5%の増加率を示している。その間にあって猪名川町のみが8.1%の減少を示しているのは，農村の人口が都市に流れたためであって，ここにも農村人口の推移が見られる。

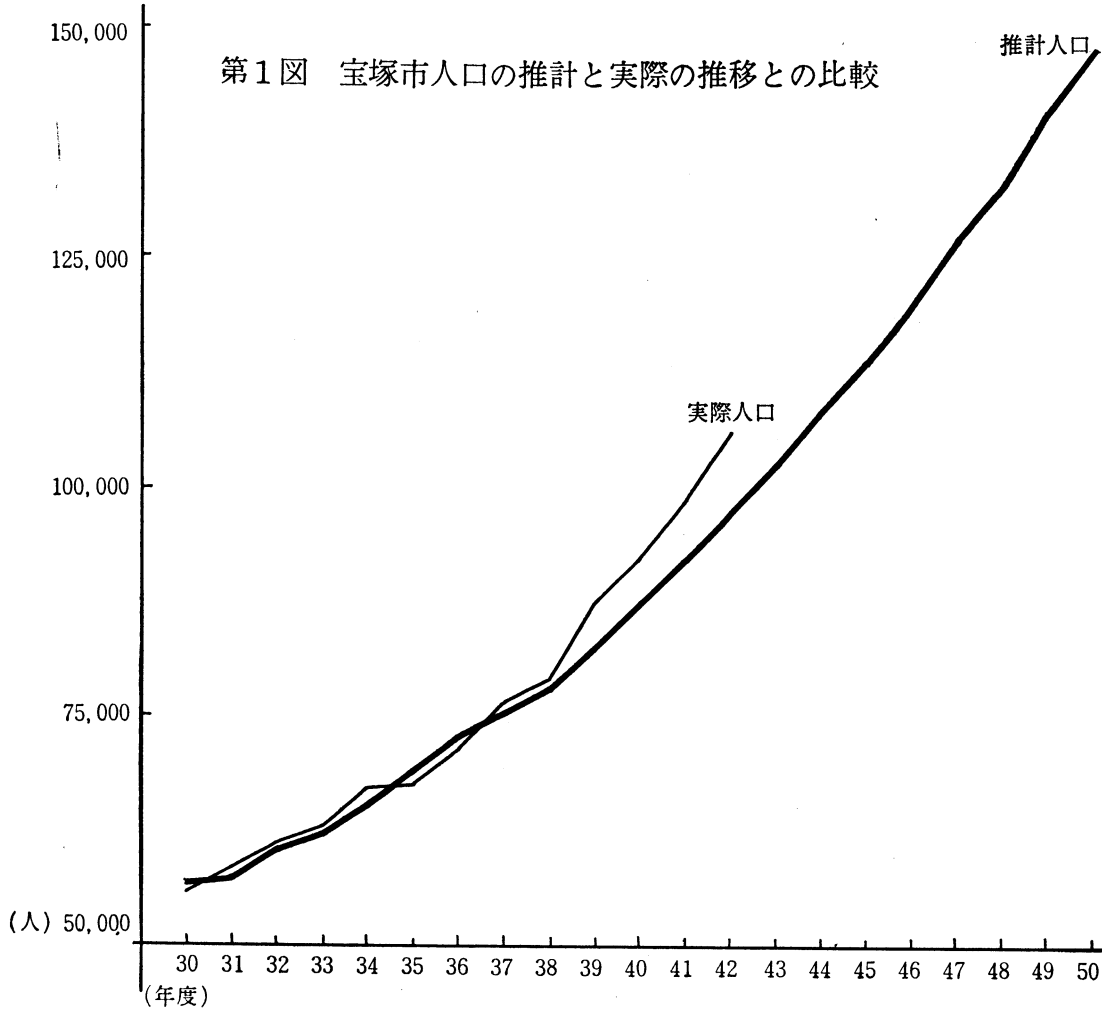
宝塚市の人口動態

人口動態というのは，人口の数の増減のことであるが，これには自然動態と社会動態とがある。自然動態というのは出生の数と死亡の数との差のことで，社会動態というのは転入者の数と転出者の数の差とのことである。

宝塚市の人口動態を見てみると，自然動態でも

第3表　阪神6市1町の人口推移

	昭和30年 第7回国調	昭和35年 第8回国調	昭和40年 第9回国調	増加率 30—35年	35—40年	30—40年
尼崎市	325,513	405,955	500,990	21.0%	23.4%	49.3%
西宮市	210,179	262,608	336,873	24.9	2[illegible].3	60.2
伊丹市	68,982	86,455	121,380	25.3	40.4	75.9
宝塚市	55,084	66,491	91,486	20.7	37.6	66.0
芦屋市	50,960	57,050	63,195	12.0	10.8	24.0
川西市	35,158	41,916	61,282	19.2	46.2	74.3
猪名川市	7,610	7,178	7,038	△ 6.0	△ 2.0	△ 8.1
計	763,486	927,653	1,182,244	21.5	27.4	46.5



第1図　宝塚市人口の推計と実際の推移との比較

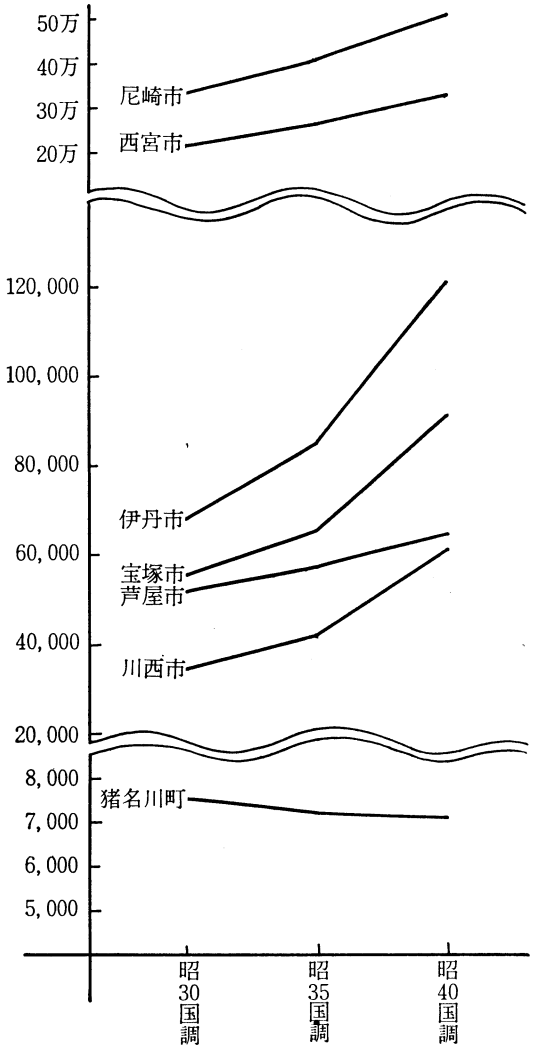
社会動態でも，いずれも差引プラスを示している。とくに自然動態よりも社会動態においてそのプラスがきわ立って大きいことが注目される。宝塚市の場合には工場など新しい企業の進出は目立って見られないところから，そのための社会動態のプラスとは考えられない。むしろ最近見られる宅地造成や住宅建設の著しい傾向から見て，社会動態のプラスの原因は住宅地化にあるといえる。このことはあとで触れるように大阪市などへの通勤者が宝塚市にその住宅を求めて転入してくるからであって，宝塚市が通勤者のために住宅地化しつつあることを意味している。

この通勤者のための住宅地化が，宝塚市の社会動態のプラスの原因だといえよう。第4表と第3図は宝塚市の人口動態を示したものである。

第4表（その1）宝塚市の人口動態

	転入出生数合計	転出死亡合計
S.29	3,471	2,280
30	5,110	3,219
31	6,297	4,364
32	6,084	4,563
33	6,752	4,415
34	8,276	4,543
35	7,861	4,574
36	9,577	5,464
37	11,200	6,312
38	12,137	6,397
39	13,844	7,673
40	14,413	8,735
41	15,874	9,178

第2図　阪神6市1町人口推移



転入と転出

さきにも見たように，宝塚市の人口動態は，自然動態においてもプラスの数を示しているが，社会動態においてはさらに上回るプラスの数を示している。たとえば自然動態において，昭和40年度では一日平均出生5人，死亡 1.2人，昭和41年度では出生4.1人，死亡1.5人となっているのと比べて，社会動態においては，昭和40年度では転入人口35人，転出人口23人，昭和41年度では転入人口39.4人，転出人口23.7人となっている。この数字は自然動態でもプラスであるとともに，社会動態ではさらにそれを上回っていることを示している。

そこでまず問わねばならないことは，どこから転入してくるか，どこへ転出するかということである。そのことを示したのは，つぎの第5表である。

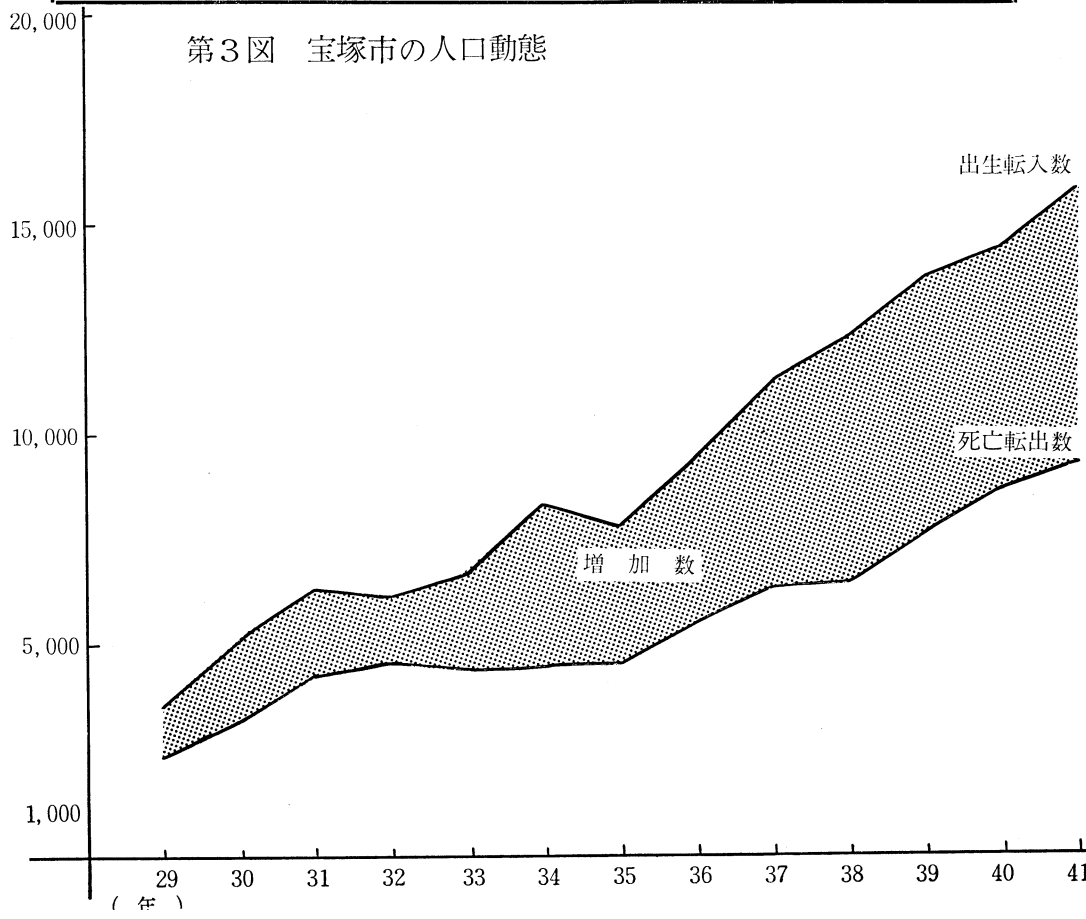
転入先を見てみると，大阪市並びに大阪府下からの転入と神戸市並びに兵庫県下からの転入が，ほかの地域からの転入と比べて圧倒的に多いことがうかがわれる。大阪市と神戸市からの転入を比べて見てみると，大阪市からの転入が1,522人(昭和40年）であるのに，神戸市のそれは1,007人であることは，宝塚市と大阪市との結びつきがうかがわれる。さらに阪神広域圏（芦屋市，西宮市，尼崎市，伊丹市，川西市，猪名川町と宝塚市の6市1町によって構成されている阪神広域行政都市協議会の行政範囲）からの転入も3,110人と多いし，また大阪府下（大阪市を除く）からの転入も3,533人と多い。これに対してほかの地域からの転入は少ない。ただ東京圏からの転入が766人あるのが目につくが，これは転任のためかと思われる。またそれ以外の地域からの転入のうち，九州からは607人と比較的多いことも注目しておいてよい。

転出先について見ると，大体において転入先と対応しているといえるが，東京圏への転出が，転入の766人に対して948人と多いことは，宝塚市への来住者のうちに東京の本社との関係者が多いことを現わしているのではなかろうかと思われるのである。

近隣都市と比べるために，つぎに第6表を掲げておこう。

第4表（その2）　宝塚市の人口動態　（毎年12月末現在）

年度	自然動態			社会動態			比率（1,000人につき）			
							自然動態		社会動態	
	出生	死亡	差引	転入	転出	差引	出生	死亡	転入	転出
							人	人	人	人
29	885	340	545	2,586	1,940	646	21.7	8.3	63.4	47.6
30	795	364	451	4,315	2,855	1,460	13.9	6.4	75.7	50.1
31	965	337	628	5,332	4,027	1,305	16.4	5.7	90.5	68.3
32	810	386	424	5,274	4,177	1,097	13.4	6.4	87.2	69.1
33	846	347	499	5,906	4,068	1,838	13.5	5.5	94.1	64.8
34	876	363	513	7,400	4,180	3,220	13.2	5.5	112.3	62.8
35	1,041	319	650	6,820	4,183	2,637	15.5	5.8	101.8	62.5
36	1,234	378	856	8,343	5,086	3,257	17.4	5.3	117.4	71.5
37	1,270	426	844	9,930	5,886	4,044	16.7	5.6	130.7	77.5
38	1,461	422	1,039	10,676	5,975	4,701	17.9	5.2	130.7	73.1
39	1,620	447	1,183	12,224	7,226	4,998	18.4	5.0	139.1	82.2
40	1,831	433	1,394	12,582	8,302	4,280	20.0	4.7	137.5	90.7
41	1,494	536	958	14,380	8,642	5,738	15.0	5.4	144.5	86.9



第5表　　宝塚市人口の転入・転出先　　（転　入）

転入先／年度	6市1町	大阪市	神戸市	兵庫県下（神戸市を除く）	大阪府下（大阪市を除く）	近畿（左以外の地区）福井県は含まず	九州	四国	中国	東京圏	その他
30年度	1,154	—	454	491	1,512	325	223	176	274	330	303
35年度	1,501	858	624	479	1,712	310	429	216	296	415	487
40年度	3,110	1,522	1,007	737	3,533	481	607	342	398	766	879

（転　出）

転出先／年度	6市1町	大阪市	神戸市	兵庫県下（神戸市を除く）	大阪府下（大阪市を除く）	近畿（左以外の地区）	九州	四国	中国	東京圏	その他
30年度	903	—	362	209	1,215	255	98	82	138	416	191
35年度	912	564	367	269	1,377	161	144	89	108	466	320
40年度	1,822	720	560	412	2,330	390	328	174	349	948	666

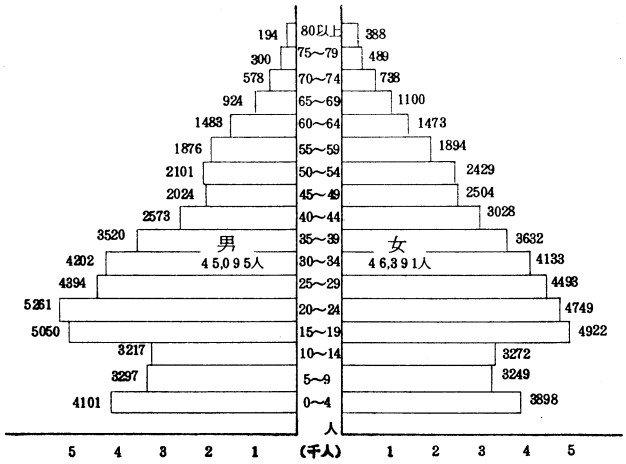
人口構成

宝塚市の人口はさきにも見たように毎年増加の一途を示している。それと共にその人口構成においても変化を示している。その変化の跡を(イ)年令別・性別構成，(ロ) 世帯構成，(ハ) 職業別就業者構成，(ニ) 地域別構成などについて見てみよう。

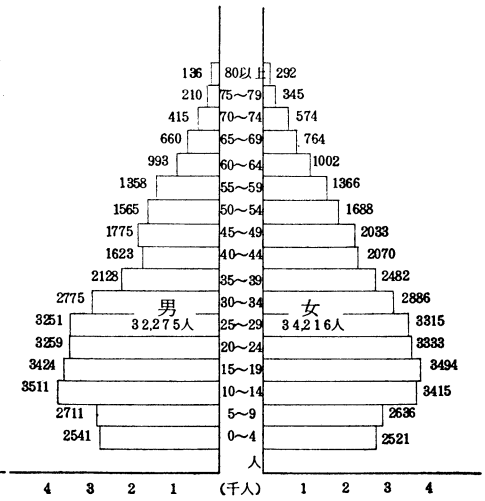
(イ)　年令別・性別構成

つぎの第5表と第6表，第4図と第5図とはそれぞれ昭和35年，40年の国勢調査による年令別・性別構成を示したものである。

昭和40年5才階級別人口



昭和35年5才階級別人口



昭和35年度と昭和40年度の年令構成を比較してみると，若干の変化がうかがわれる。この5年間において，0～4才までは昭和40年度で圧倒的に増加していること，10～14才では若干減少を示しているが，15～19才，20～24才では大幅に増加していること，とくに20～24才の男性がその増加が著しく，全構成で最大の数になっていること，また60才以上の老人が3,336人から4,711人とかな

第6表　宝塚市の年令別・性別人口構成

（昭和35年10月1日 現在）

年令	総数	男	女	年令	総数	男	女	年令	総数	男	女
0	891	451	440	35	976	473	503	70	218	94	124
1	1,093	538	555	36	1,008	503	505	71	223	92	131
2	1,002	496	506	37	971	448	523	72	204	95	109
3	898	445	453	38	806	367	439	73	184	86	98
4	959	498	461	39	880	373	507	74	161	63	98
5	986	514	472	40	849	357	492	75	151	58	93
6	1,048	531	517	41	739	332	407	76	117	41	76
7	997	515	482	42	728	316	412	77	121	54	67
8	1,092	545	547	43	626	289	337	78	106	40	66
9	1,156	544	612	44	791	380	411	79	87	29	58
10	1,311	652	659	45	737	353	384	80	80	36	44
11	1,478	753	725	46	778	363	415	81	75	25	50
12	1,628	792	836	47	755	364	391	82	68	20	48
13	1,588	773	815	48	777	358	419	83	63	23	40
14	1,088	577	511	49	729	344	385	84	39	12	27
15	1,026	518	508	50	690	334	356	85	35	8	27
16	1,265	621	644	51	689	328	361	86	26	10	16
17	1,418	675	743	52	716	334	382	87	18	2	16
18	1,432	667	765	53	636	323	313	88	11	2	9
19	1,608	791	817	54	562	295	267	89	11	4	7
20	1,397	684	713	55	547	272	275	90	9	3	6
21	1,257	646	611	56	564	277	287	91	4		4
22	1,231	616	615	57	519	282	237	92	6	2	4
23	1,386	657	729	58	546	281	265	93	3		3
24	1,321	647	674	59	547	273	274	94	2		2
25	1,424	705	719	60	422	198	224	95	1	1	
26	1,267	638	629	61	417	206	211				
27	1,316	639	677	62	401	198	203				
28	1,412	679	733	63	385	197	188				
29	1,214	599	615	64	329	160	169				
30	1,214	583	631	65	305	142	163				
31	1,147	571	573	66	334	158	176				
32	1,162	580	582	67	296	141	155				
33	1,109	541	568	68	287	138	149				
34	1,092	530	562	69	215	107	108	総計	66,490	32,275	34,215

第5表　宝塚市の年令別・性別人口構成

（昭和40年10月1日現在）

年令	総数	男	女	年令	総数	男	女	年令	総数	男	女
0	1,755	902	853	35	1,497	731	766	70	315	140	175
1	1,698	896	802	36	1,508	725	783	71	295	134	161
2	1,586	804	782	37	1,436	714	722	72	259	109	150
3	1,458	747	711	38	1,355	678	677	73	247	104	143
4	1,502	752	750	39	1,356	672	684	74	200	91	109
5	1,428	743	685	40	1,250	607	643	75	190	74	116
6	1,392	700	692	41	1,175	544	631	76	193	68	125
7	1,292	618	674	42	1,107	511	596	77	169	67	102
8	1,198	604	594	43	1,060	496	564	78	128	50	78
9	1,236	632	604	44	1,009	415	594	79	109	41	68
10	1,207	605	602	45	1,038	471	567	80	100	29	71
11	1,260	609	651	46	853	360	493	81	88	26	62
12	1,248	635	613	47	870	380	490	82	80	35	45
13	1,365	685	680	48	826	383	443	83	66	25	41
14	1,409	683	726	49	941	430	511	84	56	19	37
15	1,718	832	886	50	905	408	497	85	48	22	26
16	2,135	1,074	1,061	51	925	440	485	86	31	10	21
17	2,139	1,019	1,120	52	907	435	472	87	38	10	28
18	2,366	1,221	1,145	53	923	394	529	88	25	6	19
19	1,614	904	710	54	870	424	446	89	15	4	11
20	1,788	972	816	55	822	396	426	90	10	3	7
21	2,076	1,107	969	56	773	381	392	91	4	2	2
22	1,951	1,035	916	57	810	405	405	92	0	9	9
23	2,170	1,114	1,056	58	732	384	348	93	8	3	5
24	2,025	1,033	992	59	633	310	323	94	3	0	3
25	1,818	893	925	60	639	328	311	95	0	0	0
26	1,652	871	781	61	619	312	307	96	0	0	0
27	1,725	823	902	62	560	289	271	97	1	0	1
28	1,824	870	954	63	602	300	302				
29	1,868	937	931	64	536	254	282				
30	1,726	865	861	65	472	212	260				
31	1,598	819	779	66	416	192	224				
32	1,779	875	904	67	422	206	216				
33	1,652	859	793	68	374	173	201	総計			
34	1,580	784	796	69	340	141	199	91,486	45,095	46,391	

第6表　阪神6市1町 転入・転出先比較

			尼崎	西宮	伊丹	宝塚	芦屋	川西	猪名川	神戸	兵庫県下その他の	大阪	大阪府下その他の	近畿	中国	四国	九州	東京圏
尼崎市	昭和30年	転入		2,274	714	278	459	72	34	2,303	1,902	以下同じ	9,066	2,455	2,485	2,013	3,580	992
		転出		2,238	618	255	568	143	12	1,872	1,022		8,529	1,394	1,250	1,083	1,857	1,233
	昭和35年	転入		2,088	751	236	481	138	19	2,322	2,476		9,550	2,335	3,530	3,079	8,041	1,393
		転出		2,726	423	450	564	180	15	2,067	1,060		9,956	1,289	944	934	1,391	1,492
	昭和40年	転入		---	---	---	---	---	---	---	---	11,008	6,084	2,462	4,051	3,033	7,765	2,460
		転出		3,880	2,834	996	452	654	27	2,251	1,723		15,842	2,692	2,202	1,655	3,884	3,070
西宮市	昭和30年	転入								以下同じ	9,268	以下同じ	4,815	1,679	1,535	953	1,256	1,504
		転出									7,107		3,917	1,017	776	559	759	1,962
	昭和35年	転入									9,987		6,045	1,670	2,237	1,553	2,963	2,885
		転出									7,460		5,411	915	939	640	764	2,896
	昭和40年	転入									13,265		8,907	2,280	2,609	1,850	3,130	4,105
		転出	3,427		714	1,463	757	264	2	3,021	1,212		9,081	1,911	1,631	862	1,582	4,214
伊丹市	昭和30年	転入																
		転出																
	昭和35年	転入	1,251	324		129	92	190	9	614	775	1,035	802	682	800	477	1,294	437
		転出	827	222		180	66	185	4	427	349	655	1,056	455	278	174	201	503
	昭和40年	転入	2,839	784		245	128	336	16	1,082	1,100	1,968	1,735	4,794	1,272	888	2,025	860
		転出	1,748	395		302	54	412	8	531	580	1,085	2,015	3,747	754	502	841	911
宝塚市	昭和30年	転入	302	522	90		114	73	53	454	491	---	1,512	325	274	176	223	330
		転出	214	385	122		49	104	22	362	209	---	1,215	255	138	82	98	416
	昭和35年	転入	358	722	136		165	115	5	624	479	858	1,712	310	296	216	429	415
		転出	228	390	57		81	152	4	367	269	564	1,377	161	108	89	144	466
	昭和40年	転入	942	1,393	248		248	263	16	1,007	737	1,522	3,533	481	398	342	607	766
		転出	435	765	231		126	253	12	560	412	720	2,330	390	349	174	328	948
芦屋市	昭和30年	転入																
		転出																
	昭和35年	転入																
		転出																
	昭和40年	転入	---	---	---	---		---	---	1,849	1,968	684	592	255	389	301	499	1,065
		転出	550	958	164	308		33	0	1,560	337		1,460	291	338	195	289	1,142
川西市	昭和30年	転入																
		転出																
	昭和35年	転入																
		転出																
	昭和40年	転入									2,283		3,886	331	344	256	426	221
		転出									1,664		2,858	260	169	148	194	273
猪名川町	昭和30年	転入	7	2	14	6	1	15		10	27	27	6	9	3	2	2	5
		転出	9	4	4	12	0	23		10	16	58	3	2	0	2	0	2
	昭和35年	転入	17	6	4	7	0	12		7	6	78	15	5	0	3	5	8
		転出	27	8	5	11	0	35		15	1	91	19	7	0	1	0	7
	昭和40年	転入	6	0	4	2	0	10		2	11	16	1	2	2	0	2	1
		転出	18	4	15	22	0	32		4	11	71	3	10	0	0	0	18

り増加していることなどが指摘できる。また性別に見ると，全体としては男性よりも女性の方が多いが，昭和35年度では総人口66,491人のうち男性32,275人，女性34,216人，男女比率が男性48.5%女性51.5%となっており，昭和40年度では総人口91,486人のうち男性45,095人，女性46,391人，男女比率は男性49.3%，女性50.7%となっている。男性の増加率が女性のそれよりも高いために，男性の比率が48.5%から49.3%に上った。さらにまた昭和42年度を見てみると，総人口105,876人で，そのうち男性52,321人，女性53,555人であるから男女比率は男性49%強，女性50%を少し上回るだけとなっており，男性の比率が女性に及ばないとしても，そう開きがなくなってきている。この傾向がこんごも続いて，宝塚市の場合は全国の多くの都市に見られるパターンの例外となるかどうかは将来のことに属するので俄かに予測はたてられない。また何故にこうした現象が宝塚市に現われているかの原因についてもまだ明確化されないが，その原因のひとつとして，15～19才，20～24才，30～34才の男性が女性よりも多いこと，とくに20～24才の男性がとくに増加していることは，男性の独身者が多くなったことにあるのではなかろうかと思われる。

このことは準世帯の人員別世帯数が兵庫県全体の普通世帯と準世帯との割合が 3.4%であるのと比べて宝塚市のそれは 3.9%と高いことからもうかがわれよう。(宝塚市の1人の準世帯477，その他の準世帯は世帯数 417，人員 5,230人となっている。) 宝塚歌劇や旅館の多い宝塚市では当然女性が多いと思われるのに，男性の比率が近年とくに上昇していることは，何に原因しているかはさらに検討を要する問題だといえよう。

(ロ) 世帯構成

宝塚市の世帯数と1世帯当り人員の推移はつぎの第表に見られる通りである。

これによってみると，一世帯当りの人員は29年の4.2人から 42年の 3.7人と少なくなってきている。国勢調査年度で見てみると，第8回の30年4.5人，第9回の35年4.2人，第10回の40年3.9人と漸減し，42年では 3.7人となっている。さきにもみたように世帯と家族の概念は区別しなければならないが，世帯人員の増減は家族構成員の増減とある程度表裏するものであるから，宝塚市の家族構成が漸減しつつあることがうかがわれるわけである。いわゆる核家族化が宝塚市でも進行しつつあるといえる。

なお国調年度の昭和40年度における宝塚市の普通世帯の人員別世帯数をつぎの第8表，第9表で示しておこう。

これらの表でうかがわれることは，3～5人が多く，とくに3～4人が目立ってその比率が高いことである。これを兵庫県のそれと比べると，宝塚市の場合は2～4人で比率が高く，5人以上になるとその逆になっている。兵庫県全体と比べると，宝塚市の核家族化の進度がうかがえるわけである。

第7表　宝塚市の世帯数・世帯構成

年　度	世　帯　数	1世帯当り人員
29. 4. 1	9,712	4.2
30. 4. 1	12,722	4.5
30.10. 1	12,167	4.5
30.	13,441	4.2
31.	14,281	4.1
3[illegible].	14,763	4.1
33.	15,325	4.1
34.	16,438	4.0
35.10. 1	15,983	4.2
35.	16,134	4.2
36.	17,464	4.1
37.	19,014	4.0
38.	20,847	3.9
39.	22,751	3.9
40.	23,458	3.9
41.	26,217	3.8
42.	28,247	3.7

第8表　宝塚市の普通世帯の人員構成比

	世帯	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人以上	計
宝塚市	世帯	1,431	3,534	4,913	6,087	3,414	1,837	817	332	112	43	24	22,544
	構成比	6.3	15.7	21.8	27.0	15.1	8.2	3.6	1.5	0.5	0.2	0.1	100
兵庫県	世帯	82,798	163,182	208,944	253,227	168,737	101,119	50,243	16,768	6,305	2,234	1,688	1,055,245
	構成比	7.8	15.5	19.8	24.0	16.0	9.5	4.8	1.6	0.6	0.2	0.2	100

註　普通世帯数は市の世帯数のうち次の準世帯数を差引いたものである。

第9表　宝塚市の準世帯の人員別世帯数

		宝塚市	兵庫県
1人の準世帯		477	20,947
その他の準世帯	世帯	417	14,742
	人員	5,230	204,627
普通世帯と準世帯との割合		8.9%	3.4%

註　準世帯とは①単身で生計又は下宿しているもの、および②6人以上の住込営業人の集り、単身者用寄宿舎、独身寮などの寄宿舎、病院。療養所の入院患者、社会施設の収容者などの集りをいう。①は1人1人を②はその施設ごとにそれぞれ一つの準世帯とした。

(ハ) 職業別就業者数・産業別従業上の地位別就業者数

人口構成を見る場合，どんな就業に従事しており，またどんな地位を占めているかを見ることは，その構成の内容をうかがうひとつの大切な項目となる。もちろんこれらの人びとの多くは生産年令層に属する人たちであり，また男性が主であることは指摘するまでもない。しかしとにかくそれによって，いくぶんでも人口構成の内容がうかがえる。つぎの第10表，第11表によって片鱗がうかがえよう。

第10表　職業別就業者数

(昭和40年　国調)

職業別	宝塚市 人数	宝塚市 構成比	兵庫県 人数	兵庫県 構成比
Ⅰ 専門的技術的職業従事者	3,419人	8.5%	111,217人	5.5%
Ⅱ 管理的職業従事者	3,064	7.7	68,149	3.3
Ⅲ 事務従事者	8,753	21.9	305,024	14.8
Ⅳ 販売従事者	5,356	13.4	259,069	14.4
Ⅴ 農林、漁業従事者	3,148	7.8	296,620	12.6
Ⅵ 採鉱、採石従事者	7	0	2,768	0.1
Ⅶ 運輸、通信従事者	1,621	4.0	97,567	4.8
Ⅷ 技能工、生産工程従事者 単純労働者	10,486	26.2	761,093	37.0
Ⅸ 保安サービス従事者	365	0.9	22,473	1.1
Ⅹ サービス従事者	3,819	9.5	129,174	6.3
Ⅺ 分類不能の職業	25	0.1	1,239	0.1
総数	40,063	100	2,054,393	100

職業別就業者数で見てみると，ホワイト・カラーが圧倒的に多いことがうかがわれる。専門的技術的職業従事者や管理的職業従事者が事務従事者に比べると若干下回るのは当然であるが，しかしいわゆるエリート階層がかなり多いことがうかがわれる。またサービス従事者も多いことは，宝塚市が旅館・歌劇の町といわれていることの反映だといえよう。それとともに宝塚市のサービス従事者は，数字の上ではうかがわれないが，旅館・歌劇の町であるから，女性がかなり多いことは容易に想像されよう。技能工，生産工程従事者，単純労働者などのブルー・カラーに属する人たちが多いことも注目しておいてよい。ただ第一次産業従事者が案外少ないことを指摘しておきたい。第一次産業が次第に第二次，第三次産業へと移行するという産業構造の変化は，宝塚市でも見られることは，つぎの第12表によってもうかがえる。

第11表　産業別従業上の地位別就業者数

（昭和40年 国調）

	総数	構成比	雇用者	自営業主	家族従事者	不詳
Ⅰ 農業	2,991	7.5	346	1,280	1,357	8
Ⅱ 林業、狩猟業	18	0	13	3	2	0
Ⅲ 漁業、水産養殖業	6	0	6	0	0	0
Ⅳ 鉱業	41	0.1	40	1	0	0
Ⅴ 建設業	3,494	8.7	2,997	382	109	6
Ⅵ 製造業	9,967	24.9	9,586	250	116	15
(1) 金属、機械、化学工業	(6,350)	(15.8)	(6,258)	(57)	(26)	(9)
(2) 繊維工業	(836)	(2.1)	(750)	(65)	(21)	(0)
(3) その他の諸工業	(2,781)	(6.9)	(2,578)	(128)	(69)	(6)
Ⅶ 卸売業、小売業	8,459	21.1	6,004	1,369	1,065	21
Ⅷ 金融、保険不動産業	2,624	6.6	2,501	91	32	0
Ⅸ 運輸、通信業	2,680	6.7	2,616	43	16	5
Ⅹ 電気、ガス、水道業	399	1.0	399	0	0	0
Ⅺ サービス業	8,425	21.0	6,945	1,114	350	16
(1) 対個人サービス業、娯楽業	(4,619)	(11.5)	(3,769)	(614)	(224)	(12)
(2) 対事業所サービス業修理業	(693)	(1.7)	(612)	(67)	(14)	(0)
(3) その他のサービス業	(3,113)	(7.8)	(2,564)	(433)	(112)	(4)
Ⅻ 公務	932	2.3	932	0	0	0
Ⅻ 分類不能の産業	27	0.1	18	1	2	6
総数	40,063	100	32,403	4,534	3,049	77

第12表　農業

年度	農家世帯数	農家人口		耕地面積			
		実数	全人口に対する割合	総数	田	畑	樹園
		人	%	反	反	反	反
33	1,885	11,064	17.6	10,431	8,610	1,120	701
34	1,877	10,999	16.5	10,438	8,610	1,120	708
35	1,846	10,810	16.1	10,868	9,130	1,110	628
36	1,844	9,971	14.0	10,545	8,650	1,270	625
37	1,844	10,260	14.5	10,093	8,230	1,240	628
38	1,579	8,845	10.8	9,915	8,064	1,221	630
39	1,566	8,390	9.5	9,751	7,899	1,202	650
40	1,554	8,437	9.2	9,693	7,545	1,356	792
41	1,474	7,400	7.4	9,506	7,445	1,331	730

(二) 人口構成の地域性

宝塚市の人口が10万を越えているといわれているが，それが平均して全市域に分布しているのではなくてある地域ではかなり密度が高く，他の地域では低い。またある地域では人口は急増しているが，他の地域ではむしろ減少している。これは多くの都市にも見られる現象であるが，宝塚市の場合でも例外ではない。

つぎの第15表は昭和40年国調による宝塚市大字町丁別人口，面積及び人口密度を示したものである。

第15表によって見ると，人口の集中している地域は旧良元村，旧宝塚町など最初に合併した地域と雲雀ケ丘（旧長尾村切畑に所属）に限られていることがうかがえる。人口密度と人口数とが必ずしも対応していないが，これは宝塚市のように農地や山林が多いところでは当然起る現象である。

つぎの第16表は昭和30年，35年，40年の変化を示したものである。

これによって見ると，昭和35年から昭和40年の5年間に人口数のマイナスの地域（大字）は上佐曽利，下佐曽利，長谷，大原野，波豆，境野玉瀬，宝塚であり，その他の地域は上回っている。宝塚（大字）を除いて，他の地域は農村的地域であるから，都市や都心部への流出は考えられるが，宝塚（大字）が減少しているのはどうした原因であるかは明らかでない。プラスになった地域でもとくに長尾山，平井，中山寺，安倉小林などの地域は大幅に増加している。これはこれらの地域が宅地造成・住宅建設によって多数の人びとがこれらの地域に住宅を求めて集ってきたことに起因している[2]と思われる。その他の地域でも川面，小浜，

なお参考のため阪神6市1町を比較する意味において第13表、第14表を掲げておこう。

第13表　阪神6市1町の職業別就業者数

（昭和35年10月1日現在）

市町名	総数	比率	専門的技術的職業	比率	管理的職業	比率	事務	比率	販売	比率	農業漁業	比率	採鉱採石	比率	運輸通信	比率	技能工，生産工程従事者及び他に分類されない単純労働者	比率	サービス職業	比率	分類不能	比率
尼崎市	184,611	100.0	9,043	4.9	4,955	2.7	28,666	15.5	22,357	12.1	3,416	1.9	75	0.0	7,651	4.7	93,768	50.8	14,642	7.9	38	0.0
西宮市	111,947	100.0	9,759	8.7	7,822	7.0	26,786	23.9	15,375	13.7	3,211	3.0	376	0.3	4,225	3.8	3 ,957	31.2	9,429	8.4	7	0.0
伊丹市	40,446	100.0	2,649	6.5	1,207	3.0	6,875	17.0	3,849	9.5	2,826	7.0	43	0.1	1,317	3.3	16,538	40.9	5,141	12.7	1	0.0
宝塚市	28,239	100.0	2,428	8.6	1,761	6.2	5,825	20.6	3,410	12.1	3,285	11.6	78	0.3	1,136	4.0	7,192	25.5	3,122	11.1	2	0.0
芦屋市	23,428	100.0	2,269	9.7	2,948	12.6	6,120	26.1	3,278	14.0	304	1.3	4	0.0	644	2.7	4,842	20.7	3,017	12.9	2	0.0
川西市	18,238	100.0	982	5.4	626	3.4	2,999	16.5	2,172	11.9	1,882	10.3	18	0.1	846	4.6	7,207	39.5	1,503	8.3	3	0.0
猪名川町	3,498	100.0	179	5.1	31	0.9	227	6.5	194	5.5	1,991	57.0	6	0.1	120	3.4	667	19.0	82	2.5	1	0.0
合計	410,407	100.0	27,309	6.7	19,350	4.7	77,498	18.9	50,635	12.3	16,915	4.1	600	0.1	15,93	3.9	165,171	40.3	36,936	9.0	54	0.0

（昭和40年10月1日現在）

市村名	総数	比率	専門的技術的職業	比率	管理的職業	比率	事務	比率	販売	比率	農業漁業	比率	採鉱採石	比率	運輸通信	比率	技能工，生産工程従事者及び他に分類されない単純労働者	比率	サービス職業	比率	分類不能	比率
尼崎市	241,810	100.0	10,759	4.5	7,419	3.1	39,040	16.2	31,955	13.2	2,993	1.2	3 34	0.0	12,166	5.0	117,097	48.4	2,521	1.1	17,739	7.3	87	0.0
西宮市	151,195	100.0	11,725	7.8	11,640	7.8	35,813	23.7	23,177	15.3	2,882	1.9	60	0.0	6,330	4.2	47,248	31.2	1,313	0.9	10,969	7.2	38	0.0
伊丹市	59,394	100.0	3,505	5.9	2,052	3.5	10,807	18.2	6,381	10.7	2,582	4.3	1	0.0	2,433	4.1	25,150	42.4	3,271	5.5	3,191	5.4	21	0.0
宝塚市	40,063	100.0	3,419	8.5	3,064	7.7	8,753	21.9	5,356	13.4	3,148	7.9	7	0.0	1,621	4.0	10,486	26.2	365	0.9	3,819	9.5	25	0.0
芦屋市	27,010	100.0	2,673	9.9	3,649	13.5	6,719	24.9	4,387	16.3	253	0.9	8	0.0	762	2.8	5,318	19.7	638	2.4	2,598	9.6	5	0.0
川西市	28,183	100.0	1,468	5.2	1,011	3.6	5,365	19.1	3,608	12.8	1, 48	6.2	4	0.0	1,388	4.9	11,303	40.1	341	1.2	1,934	6.9	13	0.0
猪名川町	3,629	100.0	162	4.5	32	0.9	366	10.1	218	6.0	1,695	46.7	23	0.7	193	5.3	723	19.9	30	0.8	185	5.1	2	0.0
合計	551,284	100.0	33,711	6.1	28,867	5.3	106,863	19.4	75,082	13.6	15,301	2.8	137	0.0	24,893	4.5	217,325	39.4	8,479	1.5	40,435	7.4	191	0.0

米谷，蔵人，鹿塩などかなりなプラスを示している。とくに住宅団地がかなりな地域に形成されたことに注意しておこう。

人口密度からいえば，大幅に人口数がのびた長尾山・雲雀ケ丘の住宅地を含む切畑が15位となっている。これは切畑は面積が広く，山林や田畑が多いからである。人口密度でとび抜けて高いのは仁川台であるが，これは面積が僅か7haであるところに，住宅団地が形成されたからである。

外国人登録人口

宝塚市の人口を見る場合触れておかねばならないのは，外国人の在住者が多いことである。もちろん外国人の在住者が多いということは，神戸市や阪神地区にも共通して見られることで，とくに宝塚市に限って見られることではない。

全国的に見れば，神戸市や阪神地区は横浜，東京などと列んで多いといえる。

昭和43年3月31日現在の神戸市の外国人登録人口は34,954人，阪神6市1町では24,441人となっている。尼崎市 12,737人，西宮市 4,942人，伊丹市2,496人，芦屋市570人，川西市 1,195人，猪名川町 22人であるのと比べると宝塚市は 2,449人となっている。しかし各市町の総人口の割合からいえば，宝塚市は西宮市や伊丹市や芦屋市と比べてかなり多いことになる。川西市と尼崎市が多いことに注意しておきたい。

宝塚市在住の外国人は第17表に見られるように，逐年増加している。昭和43年3月31日現在の在住者とその国籍別は第17表，第18表の通りである。

第17表，第18表で見られるよう

第14表　阪神6市1町の産業別就業者数

(昭和35年10月1日　現在)

		第1次産業					第2次産業					第3次産業							
		農業	林業 狩猟業	漁業 水産養殖業	就業者数	比率	鉱業	建設業	製造業	就業者数	比率	卸売業 小売業	金融保険 不動産業	運輸 通信業	電気ガス 水道業	サービス業	公務	分類不能	就業者数	比率
尼崎市	184,611	3,279	41	66	3,386	1.8	122	15,270	87,879	103,271	55.9	34,066	4,890	11,582	2,055	21,137	4,186	38	77,954	42.2
西宮市	111,947	2,871	68	250	3,189	2.8	237	9,397	36,578	46,212	41.3	23,968	6,608	8,913	1,778	17,645	3,621	13	62,546	55.9
伊丹市	40,446	2,823	9	4	2,836	7.0	47	2,361	17,745	20,153	49.8	5,739	1,196	1,962	269	4,582	3,705	4	17,457	43.2
宝塚市	28,239	3,179	28	3	3,210	11.4	121	2,380	6,464	8,965	31.7	5,541	1,461	1,908	215	6,277	658	4	16,064	56.1
芦屋市	23,428	263	34	56	353	1.5	35	1,664	5,919	7,618	32.5	6,010	1,969	1,463	188	4,843	983	1	15,457	65.0
川西市	18,238	1,861	9	2	1,872	10.3	25	1,028	7,001	8,054	44.2	3,245	559	1,345	106	2,561	496	0	8,312	45.6
猪名川町	3,498	1,935	56	0	1,991	56.9	7	196	449	652	18.6	248	29	155	9	342	72	0	855	24.5
合計	410,407	16,211	245	381	16,837	18.5	594	32,296	162,035	194,925	47.5	78,817	16,712	27,328	4,620	57,387	13,721	60	198,645	48.4

(昭和40年10月1日　現在)

		第1次産業					第2次産業					第3次産業							
		農業	林業 狩猟業	漁業 水産養殖業	就業者数	比率	鉱業	建設業	製造業	就業者数	比率	卸売業 小売業	金融保険 不動産業	運輸 通信業	電気ガス 水道業	サービス業	公務	分類不能	就業者数	比率
尼崎市	241,810	2,864	55	58	2,977	1.2	121	22,016	108,063	130,200	53.9	47,802	8,531	16,946	1,941	28,498	4,822	93	108,633	44.9
西宮市	151,195	2,699	47	188	2,934	1.9	172	12,437	46,434	59,043	39.1	35,986	10,006	12,233	2,313	23,741	4,391	48	89,218	59.0
伊丹市	59,394	2,605	8	2	2,615	4.4	10	3,754	27,324	31,088	52.3	9,026	2,056	3,167	366	6,457	4,594	25	25,691	43.3
宝塚市	40,063	2,991	18	6	3,015	7.5	41	3,494	9,967	13,502	33.7	8,459	2,624	2,680	399	8,425	932	27	23,546	58.8
芦屋市	27,010	205	23	52	280	1.0	15	1,756	6,756	8,527	31.6	7,658	2,290	1,710	162	5,258	1,119	6	18,203	67.4
川西市	28,183	1,742	7	4	1,753	6.2	20	2,018	10,876	12,914	45.8	5,325	1,288	2,053	169	3,946	719	16	13,516	48.0
猪名川町	3,629	1,685	19	0	1,704	47.0	33	150	482	665	18.3	300	81	261	11	521	84	2	1,260	34.7
合計	551,284	14,791	177	310	15,278	2.8	412	45,625	209,902	255,939	46.4	114,556	27,376	39,050	5,361	76,846	16,661	217	280,067	50.8

第15表　宝塚市大字町丁別人口、面積及び人口密度

大字町丁名	面積	40年人口・順位	人口密度・順位
			人/ha
上佐利曽	420ha	411人(18)	0.98 (18)
下佐曽利	269	172 (22)	0.64 (19)
長谷	477	258 (20)	0.54 (21)
大原野	768	1,109 (15)	1.44 (17)
波豆	498	179 (21)	0.36 (22)
境野	184	300 (19)	1.63 (16)
玉瀬	927	510 (17)	0.55 (20)
切畑	2,867	5,584 (7)	1.95 (15)
平井	82	2,446 (11)	29.83 (7)
山本	244	4,413 (8)	18.09 (10)
中筋	340	2,179 (12)	6.41 (13)
中山寺	268	1,253 (14)	4.66 (14)
川面	667	12,861 (2)	19.28 (9)
安倉	238	3,503 (9)	14.72 (11)
小浜	52	2,170 (13)	41.73 (5)
米谷	150	9,899 (3)	65.99 (2)
宝塚	50	3,046 (10)	60.92 (3)
伊子志	274	8,486 (5)	30.97 (6)
小林	797	16,581 (1)	20.80 (8)
藤人	437	6,056 (6)	13.86 (12)
鹿塩	171	9,413 (4)	55.05 (4)
仁川台	9	657 (16)	73.00 (1)
計		91,486	8.98

（　）印は順位を示す。

に，朝鮮人が圧倒的に多い比率を占めている。朝鮮は現在のところ，北鮮（朝鮮）と南鮮（韓国）とに分かれているが，大体半々のようである。

彼らの多くは高松，御所前，小浜（大堀川附近），安倉（西田川附近），川面（長尾山採石場附近），仁川（タヌキ谷）などに住んでいる。とくに高松，御所前に多い。彼らが何故にこうした地域に住んでいるかは社会生態学的研究の対象となるであろう。

沖縄出身者

いずれの都市にも鹿児島県出身者が多いとか，宮崎県出身者が多いとかいうように，特定の県の出身者がとくに多いことがまま見られることである。宝塚市の場合は，全国から多くの出身者が集ってきているが，沖縄出身者がかなりいることは見逃してはならない。現在約1,500～1,600人在住しており，彼らの中から市会議員が二人出ているほどである。

どうして彼らが宝塚市に多く来住したかについての考察，また彼らの生態はどうであるか，マージナル・マンとして彼らはどうであるかなどの問題については別の機会に譲ることにしたい。彼らは主として高松町（約65%）御幸町（約25%）を中心に住んでいるが，どうしてこうした地区に集っているかもまた社会生態学的に興味のある問題であるが，このこともまた後日に残したい。

第17表　外国人登録人口

（毎年12月末現在）

年度	総数			朝鮮韓国				中国		その他	
	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
31	1,720	929	791	528	434	364	300	10	19	27	38
32	1,808	986	822	566	455	382	313	8	12	30	42
33	1,942	1,053	889	592	479	411	336	10	14	40	60
34	1,983	1,074	909	612	496	418	344	12	16	32	53
35	2,063	1,109	954	600	503	446	372	12	14	51	65
36	2,075	1,111	964	593	502	454	386	13	14	51	62
37	2,193	1,192	1,001	629	500	497	422	12	15	54	64
38	2,236	1,208	1,028	615	488	535	461	11	13	47	66
39	2,259	1,226	1,033	637	504	533	457	13	10	43	62
40	2,298	1,239	1,059	651	530	531	456	17	17	40	56
41	2,418	1,286	1,132	男	1,217	女	1,042	21	18	48	72
42	2,428	1,278	1,150								

第16表　宝塚市大字町丁別人口増減率及び人口密度に関する調書

市町村名	大字町丁名	面積	人口 30年	人口 35年	人口 40年	人口増減率 (40年/35年)	人口密度 35年	密度 40年	人口密度変化率 (40年/35年)	備考
宝塚市	上佐曽利	420 ha	498 人	430(17) 人	411(18) 人	95.58%(18)	1.02 人/ha(17)	0.98 人/ha(18)	0.96%(17)	(香合新田32haを含む
	下佐曽利	269	216	187(20)	172(22)	91.98 (19)	0.70 (18)	0.64 (19)	0.92 (19)	
	長谷	477	351	304(19)	258(20)	84.87 (21)	0.64 (19)	0.54 (21)	0.84 (21)	(芝辻新田19haを含む)
	大原野	768	1,233	1,124(14)	1,109(15)	98.67 (14)	1.46 (15)	1.44 (17)	0.99 (14)	
	波豆	498	353	185(21)	179(21)	96.76 (15)	0.37 (21)	0.36 (22)	0.97 (15)	
	境野	184	213	342(18)	300(19)	87.72 (20)	1.86 (14)	1.63 (16)	0.88 (20)	
	玉瀬	927	542	532(16)	510(17)	95.86 (17)	0.57 (20)	0.55 (20)	0.96 (17)	
	切畑	2,867	2,103	3,190(7)	5,584(7)	175.05 (1)	1.11 (16)	1.95 (15)	0.76 (1)	(長尾山雲雀ケ丘を含む)
	平井	82	1,512	1 448(13)	2,446(11)	168.92 (2)	17.66 (6)	29.83 (7)	1.69 (2)	
	山本	244	2,642	2,806(9)	4,413(8)	157.27 (3)	11.50 (9)	18.09 (10)	1.57 (3)	
	中筋	340	2,063	1,969(11)	2,179(12)	110.67 (13)	5.79 (12)	6.41 (13)	1.11 (13)	
	中山寺	268	772	819(15)	1,253(14)	152.99 (5)	3.04 (13)	4.66 (14)	1.53 (4)	
	川面	667	8,348	9,685(2)	12,861(2)	132.79 (10)	14.52 (7)	19.28 (9)	1.33 (10)	
	安倉	238	2,034	2,305(10)	3,503(9)	151.97 (6)	9.68 (11)	14.72 (11)	1.52 (6)	
	小浜	52	1,530	1,560(12)	2,170(13)	139.10 (8)	30.00 (4)	41.73 (5)	1.39 (8)	
	米谷	150	4,642	6,699(5)	9,899(3)	147.77 (7)	44.66 (2)	65.99 (2)	1.48 (7)	
	宝塚	50	3,038	3,156(8)	3,046(10)	96.51 (16)	63.12 (1)	60.92 (3)	0.97 (15)	
	伊子志	274	5,251	7,840(3)	8,486(5)	115.61 (12)	26.79 (5)	30.97 (6)	1.16 (12)	
	小林	797	10,025	10,837(1)	16,581(1)	153.00 (4)	13.60 (8)	20.80 (8)	1.53 (4)	
	歳人	437	4,343	4,655(6)	6,056(6)	130.10 (11)	10.65 (10)	13.86 (12)	1.30 (11)	
	鹿塩	171	3,672	6,918(4)	9,413(4)	136.07 (9)	40.46 (3)	55.05 (4)	1.36 (9)	
	仁川台	9			657(16)			73.00 (1)		
	計	10,189	55,379	66,491	91,486	137.59	6·53	8.98	1.38	

※（　）印は順位を示す

第18表　国籍別外国人登録人口

（昭和43年3月31日　現在）

年令別／国籍別	計	20才以上		14才以上20才未満		14才未満		在監者	世帯数
		男	女	男	女	男	女		
総計	2,449	713	620	196	173	383	364	2	654
ベルギー	1	1							
カナダ	7	1	4			1	1		3
中国	23	8	6	4	2	1	2		9
フランス	5		5						2
ドイツ	12	6	4			1	1		8
イラン	5	1	1	1			2		1
イタリア	2	1	1						2
ハンガリー	2		2						1
インド	1					1			
朝鮮人	2,296	681	565	172	154	373	351	2	586
オランダ	1	1							1
ニュージーランド	1		1						
ノールウェー	4		1	3					
ポーランド	1	1							1
ポルトガル	7	1	3	2		1			2
スペイン	1		1						
スイス	5	2	3						2
タイ	1					1			
イギリス	4		4						
アメリカ	67	9	16	14	17	4	7		36
無国籍	3		3						

宝塚市の人口重心

人口重心というのは，変動する人口のある時点における地域分布の状態を最も簡約に示すために，物理学の重心の概念を導入して測定された地理的位置のことである。一定の地域を一つの平面と考え一定時点にその上に分布している人口の1人1人が同じ重さをもつと仮定した場合，この平面を支え得る唯一つの点を人口重心と呼ぶのである。たとえば，宝塚市を平らな板と仮定し，その上に住んでいる宝塚市民1人1人が男女老若を問わず体重が等しいと仮定した場合，この平面を下から一本の細い棒で水平に保つことができる点が宝塚市の人口重心である。

この人口重心は地図上の抽象的な点にすぎないが，人口分布の状態を要約的，総体的に示す指標として，時間的系列の面から人口重心移動の軌跡をみるときは，単に過去における人口分布の変容を知るばかりではなく，さらに将来への発展の方向についてもサヂェストするものがある。

宝塚市の人口重心を「大字区域による方法」によって，国調人口によって算出してみた。この算出は関西学院大学大学院（修士コース）学生中村君の手を煩らわした。（図表は省略）

これによって見ると，宝塚市の人口重心は，昭和35年国調時点では山本の戌亥垣内の地点に位置しており，昭和40年国調時点では山本字田村の森の地点に位置していることがわかる。この両時点から見ると，その人口重心は5年間に東南に約300m移動したことになる。宝塚市の人口重心が大阪方面に傾斜しつつあることがうかがわれる。

（三）

宝塚市の夜間人口について述べてきたので，つぎにその昼間人口について触れてみよう。いずれの都市の人口も外部からの流入と外部への流出とが見られる。これには大別すると三つのパターンがある。その一は，外部からの流入人口が外部への流出人口を上回るパターンである。この場合はその都市の夜間人口よりも昼間人口が多くなる。その二は，外部からの流入人口が外部への流出人口を下回るパターンである。この場合はその都市の夜間人口が昼間人口よりも多くなる。その三は外部からの流入人口と外部への流出人口が等しい

場合である。この場合は，その都市の夜間人口と昼間人口が等しい。これらのパターンを仮にここではA型，B型，C型と名ずけておこう。

A型は東京，大阪，名古屋などのような大都市に見られる（しかし横浜市のような大都市がB型であり，また尼崎市の場合でもB型であることは如何に巨大都市の東京，大阪の吸引力が強いかを示している）。また群小の町村の中心となっている地方都市でもまま見られる。たとえば，兵庫県下でいえば，洲本市，豊岡市，西脇市，柏原市など。B型は大都市周辺の都市によく見られるものである。C型は現代では現実的には見られない。

ところで宝塚市はどの型に属するであろうか。

宝塚市の昼間人口（その一）——流入と流出

つぎの第19表は宝塚市の流入人口，流出人口を示したものである。

第19表　　宝塚市の昼間人口

年次	国勢調査人口	流入人口	流出人口	昼間人口	純引増減(△)	国調人口に対する昼間人口の割合%
	人	人	人	人	人	
昭和35年	66,491	3,157	13,207	56,441	△ 10,050	84.89%
昭和40年	91,486	9,609	28,614	72,481	△ 19,005	79.23%

これによって見ると，宝塚市の場合は，流出人口が流入人口を上回っているから，B型に属するといえる。夜間人口が昼間人口よりも多いわけである。しかも年を追うごとにこの傾向が強まるようである。このことは昭和35年の国勢調査と昭和40年のそれとを比べてみればよくわかる。夜間人口に対する昼間人口の割合は，昭和35年では84.89%であったのが，昭和40年では 79.23%となっているからである。このように流出が多く，流入が少ないということは，それだけ宝塚市が住宅地化（ベッド・タウン化）していることを意味している。というのは，宝塚市の場合はそう目立った工場建設がなく，住宅建設が盛んに行われているからである。そして昭和35年と昭和40年とを比べてみると，流入人口も絶対数ではかなり増加しているが，流出人口はさらにそれを上回っているのである。

ところで阪神6市1町の流出・流入による昼間人口を見てみると，つぎの第20表に現われているように，昼間人口指数は昭和30年～昭和35年～昭和40年の間の動きは殆んどが延びているが，ただ芦屋市のみは鈍化し，むしろ昭和35年～昭和40年では若干減少していること，川西市が急増していること，また尼崎市のような工業都市が昼間人口が夜間人口よりも少ないということ（これは大阪市への流出に拠る）などは注目を払っておいてよいことであろう。

昼間人口（その二）——流出先と流入先

宝塚市は夜間人口が昼間人口より多い。このことは流出人口が流入人口を上回っていることを意味しているが，どれだけの人口がどこに流れ出ているか，その流出先と，どれだけの人口がどこから流入してくるか，その流入先を示したのが第21表と第22表である。

まず流出先を見てみると，とび抜けて多いのは大阪市（とくに北区，東区，東淀川区など）であり，ついで西宮市，神戸市，少し落ちて尼崎市，豊中市，池田市などが続いている。性別で見ると男性が多い。通勤者と通学者とを比べてみると，通勤者が通学者の約3倍である。通学者の場合，西宮市がきわ立って多いことは，大学，高校などがかなり存在しているからであろう。なお神戸市大阪市，豊中市，池田市，尼崎市などへの通学者もかなりある。

県内と県外とを比べてみると，県外（主として

第20表　阪神6市1町の流出流入

(昭和30年10月1日　現在)

	A 夜間人口	B 流入人口	C 流出人口	B−C 流入超過人口	C−B 流出超過人口	A+B−C 昼間人口	昼間人口増数	B/A	C/A
尼崎市	335,513	26,190	42,448	△ 16,258	16,258	319,255	105.1	7.8	12.7
西宮市	210,179	19,722	40,901	△ 21,179	21,179	189,000	111.2	9.4	19.5
伊丹市	68,982	5,323	10,717	△ 5,394	5,394	63,588	108.5	7.7	15.5
宝塚市	55,084	2,408	9,502	△ 7,094	7,094	47,990	114.8	4.4	17.3
芦屋市	50,960	2,001	12,964	△ 10,963	10,963	39,997	127.4	3.9	25.4
川西市	35,158	1,136	6,824	△ 5,688	5,688	29,470	119.3	3.2	19.4
猪名川町	7,610	41	302	△ 261	261	7,349	103.6	0.5	4.0
	763,486	56,821	123,658	△ 66,837	66,837	696,649	109.6	7.4	16.2

(昭和35年10月1日　現在)

尼崎市	405,955	40,583	65,495	△ 24,912	24,912	381,043	106.5	10.0	16.1
西宮市	262,608	27,995	64,088	△ 36,093	36,093	226,515	115.9	10.7	24.4
伊丹市	86,455	9,672	17,431	△ 7,759	7,759	78,696	109.9	11.2	20.2
宝塚市	66,491	4,807	16,972	△ 12,165	12,165	54,326	122.4	7.2	25.5
芦屋市	57,050	5,362	17,857	△ 12,495	12,495	44,555	128.0	9.4	31.3
川西市	41,916	1,775	11,881	△ 10,106	10,106	31,810	131.8	4.2	28.3
猪名川町	7,178	41	847	△ 806	806	6,372	112.6	0.6	11.8
	927,653	90,235	194,571	△ 104,336	104,336	823,317	112.7	9.7	21.0

(昭和40年10月1日　現在)

尼崎市	500,990	57,444	94,953	△ 37,509	37,509	463,481	108.1	11.5	11.5
西宮市	336,873	44,762	99,474	△ 54,712	54,712	282,161	119.4	13.3	29.5
伊丹市	121,380	14,787	29,715	△ 14,928	14,928	106,452	114.0	12.2	24.5
宝塚市	91,486	9,609	28,614	△ 19,005	19,005	72,481	126.2	10.5	31.3
芦屋市	63,195	10,013	22,655	△ 12,642	12,642	50,553	125.0	15.8	35.8
川西市	61,282	2,902	20,997	△ 18,095	18,095	43,187	141.9	4.7	34.3
猪名川町	7,038	184	1,319	△ 1,135	1,135	5,903	119.2	2.6	18.7
	1,182,244	139,701	297,727	△ 158,026	158,026	1,024,218	115.4	11.8	25.2

大阪）が2倍をはるかに越えていることは，大阪への指向性が強いことを示している。また流入先では三田市などからは僅少であることは，宝塚市の指向性が北部になくて，阪神にあることを示している。

流入先を見てみると，県外よりも県内が約2.7倍である。県内では西宮市がきわ立って多い。ついで川西市，神戸市，尼崎市，伊丹市，三田市，芦屋市の順となっている。県外では大阪府下の都市からの流入が多い。通勤者と通学者では，前者が約3倍以上あるが，通学者で女が男より約2倍多いことが注目される。

なお参考のため，阪神6市1町の流出人口，流入人口の動きを示している。昭和30，35，40年についての調査を第23表，第24表，第25表として掲げておこう。大阪との関係が密接なことがよくうかがわれる。

昼間人口（その三）——流出・流入者の交通機関の利用

宝塚市の流出・流入者が如何なる交通機関を利用しているか。現在宝塚市と外部とを結ぶ交通機関としては，国鉄福知山線と京阪神急行（通称阪急電鉄）の今津線，宝塚線とが走っており，またバスがある。

宝塚市の人口の流出・流入はこれらの交通機関によって行われている。もちろんこれらの交通機関を利用しないタクシーや自家用車の利用者の存

第21表　　流出先別人口

流出先	総数			内通勤者			内通学者		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
神戸市	3,070	2,315	755	2,132	1,854	278	938	469	477
内東灘区	551	377	174	196	168	28	355	209	146
〃灘区	526	313	213	177	148	29	349	165	184
〃葺合区	434	324	110	376	316	60	58	8	50
〃生田区	1,169	960	209	1 056	924	132	113	36	77
〃長田区	92	81	11	78	72	6	14	9	5
〃兵庫区	230	205	25	220	203	17	10	2	8
〃須磨区	23	19	4	17	14	3	6	5	1
〃垂水区	45	36	9	12	9	3	33	27	6
姫路市	21	20	1	17	16	1	4	4	0
尼崎市	1,978	1,464	514	1,609	1,318	291	369	146	223
明石市	18	14	4	15	12	3	3	2	1
西宮市	3,934	2,483	1,451	1,822	1,398	424	2,112	1,085	1,427
芦屋市	389	171	218	112	88	24	277	83	194
伊丹市	948	642	306	625	483	142	323	159	164
川西市	303	188	115	278	180	98	25	8	17
三田市	290	199	91	101	75	26	189	124	65
猪名川町	19	8	11	11	6	5	8	2	6
その他	30	28	2	21	21	1	8	7	1
県内計	11,000	7,532	3,468	6,744	5,451	1,293	4,256	2,081	2,175
大阪市	13,752	11,107	2,465	12,665	10,508	2,157	907	599	308
北区	4,444	3,555	889	4,305	3,471	834	139	84	55
都島区	163	145	18	127	109	18	36	36	0
福島区	424	341	83	408	327	81	16	14	2
此花区	353	339	14	347	335	12	6	4	2
東区	3,411	2,772	639	3,308	2,740	568	103	32	71
西区	929	811	118	918	804	114	11	7	4
港区	106	98	8	104	97	7	2	1	1
大正区	74	70	4	73	69	4	1	1	0
天王寺区	182	136	46	112	90	22	70	46	24
南区	720	571	149	713	569	144	7	2	5
浪速区	161	135	26	154	129	25	7	6	1
大淀区	377	319	58	365	313	52	12	6	6
西淀川区	385	327	58	363	313	50	22	14	8
東淀川区	1,151	882	269	850	683	167	301	199	102
東成区	103	99	11	101	91	10	2	1	1
生野区	45	95	6	38	34	4	7	5	2
旭区	86	58	11	28	17	11	58	58	0
城東区	121	184	3	111	108	3	10	10	0
阿部野区	146	148	22	88	76	12	58	48	0
住吉区	95	82	17	63	56	7	20	22	10
東住吉区	40	23	8	33	29	4	78	3	4
西成区	56	87	8	56	48	8	0	0	0
池田市	1,010	621	368	592	462	130	418	180	238
豊中市	1,156	731	413	606	452	154	550	291	259
吹田市	360	37	23	116	105	11	244	232	12
箕面市	215	151	64	74	54	20	141	97	44
布施市	148	131	17	55	51	4	93	80	13
守口市	75	70	5	47	46	1	28	24	4
高槻市	88	85	3	48	45	3	40	40	0
枚方氏	15	15	0	12	12	0	3	3	0
門真市	31	30	1	31	30	1	0	0	0
寝屋川市	42	40	2	12	11	1	30	29	1
堺市	100	95	5	82	77	5	18	18	0
その他大阪府下	151	130	21	114	102	12	37	28	9
京都市	286	232	54	99	86	13	187	146	41
その他京都府下	14	11	3	10	8	2	4	3	1
奈良県	20	17	3	15	15	0	5	2	3
和歌山県	10	9	1	9	8	1	1	1	0
滋賀県	10	10	0	10	10	0	0	0	0
福井県	2	1	1	2	1	1	0	0	0
愛知県	25	25	0	25	25	0	0	0	0
その他	167	164	3	157	154	3	10	10	0
県外計	17,614	14,145	3,469	14,847	12,322	2,525	2,767	1,823	994
合計	28,614	21,677	6,937	21,591	17,773	3,818	7,023	3,904	3,119

第22表　流入先別人口

	流入								
	総数			通勤者			通学者		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
神戸市	898	600	298	769	570	199	129	30	99
東灘区	273	157	116	207	152	55	66	5	61
灘区	178	115	63	160	111	49	18	4	14
葺合区	54	39	17	47	34	13	7	3	4
生田区	43	28	15	32	26	6	11	2	9
兵庫区	188	134	54	169	121	48	19	13	6
長田区	80	59	21	77	59	18	3		3
須磨区	44	34	10	39	31	8	5	3	2
垂水区	38	36	2	38	36	2			
姫路市	11	10	1	8	8		3	2	1
尼崎市	714	458	256	558	406	152	156	52	104
明石市	21	19	2	20	19	1	1		1
西宮市	2,556	1,523	1,033	1,824	1,274	550	732	249	483
洲本市									
芦屋市	225	73	152	103	69	34	122	4	118
伊丹市	580	381	199	430	310	120	150	71	79
相生市	1	1		1	1				
豊岡市									
加古川市	5	4	1	4	4		1		1
龍野市									
赤穂市	1	1		1	1				
西脇市	2	2		2	2				
宝塚市									
三木市	4	3	1	4	3	1			
高砂市	3	3		3	3				
川西市	1,011	533	478	543	345	198	468	188	280
小野市	1	1		1	1				
三田市	430	293	137	405	289	116	25	4	21
猪名川町	62	45	17	58	44	14	4	1	3
その他	474	367	107	461	367	94	13	0	13
県内計	6,999	4,317	2,682	5,195	3,716	1,479	1,804	601	1,203
大阪府	2,464	1,635	829	1,935	1,451	484	529	184	345
大阪市	944	734	210	845	703	142	99	31	68
その他の市	1,440	837	603	1,013	685	328	427	152	275
その他の町村	80	64	16	77	63	14	3	1	2
京都府	89	67	22	82	67	15	7		7
京都市	75	57	18	69	57	12	6		6
その他の市	5	4	1	5	4	1			
その他の町村	9	6	3	8	6	2	1		1
滋賀県	5	4	1	4	4		1		1
奈良県	24	19	5	21	18	3	3	1	2
和歌山県	15	13	2	14	13	1	1		1
岡山県	2	2		1	1		1	1	
鳥取県									
福井県									
三重県	8	7	1	8	7	1			
岐阜県	1	1		1	1				
愛知県	2	1	1	1	1		1		1
その他の府県									
県外計	2,610	1,749	861	2,067	1,563	504	543	186	357
合計	9,609	6,066	3,543	7,262	5,279	1,983	2,347	787	1,560

在は無視できない。しかしその数はつかめない。だからここでは国鉄と私鉄の利用者に限ることで満足するほかない。

ところで国鉄と私鉄の利用者がすべて市民とは限らない。通過交通者がかなり存在している。その数はつかめない。そのうえ国鉄と私鉄の利用者数とても必ずしも正確なものではない。おおよその見当づけぐらいのところである。昼間人口をルーズに考えれば通過人口も含まれるであろうが，狭義に考えれば除外すべきであろう。これだけの限定をつけて国鉄と私鉄の利用者数をうかがうことにしよう。

第26表は昭和31～41年間の市内国鉄各駅の乗降客数（一日平均）である。宝塚市では国鉄福知山線が走っており，市内には武田尾，宝塚，中山寺の三つの駅がある。昭和31年から41年の間の三駅の乗降客総数は，乗客3,959人から6,458人に増え，降客は4,145人から6,613人に増えている。しかし定期客と不定期客とを見てみると，定期客は確実な延びを示しているが，不定期客はあまり延びていない。武田尾の場合はむしろ減っている。定期客が増えているということは通勤・通学者が年々増加していることを意味しているといえよう。武田尾駅の場合は，宝塚市内と阪神への通勤・通学者であろう。昭和43年4月から武田尾の奥地の西谷地区と宝塚との間に定期バスの運行が開始された。その影響がこんごどう現われるかに注目したい。宝塚駅の場合は，武田尾や三田，篠山あたりの奥地からの阪神への通勤・通学者であろうし，中山寺駅の場合は阪神への通勤・通学者であろう。なお三駅のうち，宝塚駅が圧倒的に多いことは立地上当然なことといえる。

第26表　市内国鉄各駅の乗降客数

（1日平均）

年度	区別	総数	武田尾		宝塚		中山寺	
			定期	定期外	定期	定期外	定期	定期外
31	乗客	3,959	417	410	1,746	1,212	103	71
	降客	4,145	417	406	1,746	1,412	103	61
32	乗客	4,184	442	386	1,926	1,243	112	75
	降客	4,383	442	381	1,926	1,455	112	67
33	乗客	4,434	468	401	2,029	1,325	139	72
	降客	4,626	468	393	2,029	1,533	139	64
34	乗客	4,702	530	431	2,133	1,370	1 1	77
	降客	4,875	530	418	2,133	1,566	161	67
35	乗客	5,220	676	411	2,397	1,481	177	78
	降客	5,436	676	402	2,397	1,719	177	65
36	乗客	8,208	572	442	2,647	,268	194	85
	降客	8,442	572	431	2,647	4,527	194	71
37	乗客	5,864	641	441	2,931	1,586	197	68
	降客	6,131	641	425	2,931	1,879	197	58
38	乗客	4,949	546	419	2,475	1,287	171	51
	降客	5,097	546	315	2,475	1,536	171	54
39	乗客	5,995	684	408	3,099	1,532	214	58
	降客	6,138	684	324	3,099	1,764	214	53
40	乗客	6,471	699	428	3,294	1,758	231	61
	降客	6,597	699	417	3,294	1,893	231	63
41	乗客	6,458	741	398	3,381	1,588	270	81
	降客	6,613	741	357	3,381	1,779	270	85

つぎに私鉄の阪急の乗降客数についてである。阪急の宝塚駅から今津線と宝塚線が出ているが，市内にある駅としては，今津線では仁川，小林，逆瀬川，宝塚南口，宝塚線では清荒神，売布神社，中山，山本，雲雀ケ丘花屋敷の各駅がある。これらの各駅の昭和31年度から昭和41年度にかけての1日平均の乗降客数を示したのが，第27表である。

第23　阪神6市1町の主要流出先別流動人口

	人口 (A)	流出人口 (B)	$\frac{B}{A}\times100$	阪神圏流出人口 (C)									
				尼崎	西宮	伊丹	宝塚	芦屋	川西	猪名川	神戸	大阪	その他
				$\frac{C}{B}\times100$									
尼崎市	335,513	42,448	12.7	—	3,067 (7.4)	994 (2.3)	174 (0.4)	168 (0.4)	40 (0.1)	4 (0)	3,644 (8.6)	31,430 (74.0)	2,162 (5.1)
西宮市	210,179	40,901	19.5	6,709 (16.4)	—	340 (0.8)	609 (1.5)	436 (1.1)	29 (0.1)	0 (—)	7,305 (17.9)	23,193 (56.7)	1,529 (3.7)
伊丹市	68,982	10,717	15.5	3,170 (29.6)	430 (4.0)	—	177 (1.7)	33 (0.3)	116 (1.1)	0 (—)	696 (6.5)	5,197 (48.5)	709 (6.6)
宝塚市	55,084	9,502	17.3	614 (6.5)	1,249 (13.4)	331 (3.5)	—	59 (0.6)	137 (1.4)	12 (0.1)	874 (9.2)	5,222 (55.0)	869 (9.1)
芦屋市	50,960	12,964	25.4	649 (5.0)	1,158 (8.9)	52 (0.4)	51 (0.4)	—	6 (0)	0 (—)	3,739 (28.8)	6,620 (51.1)	441 (3.4)
川西市	35,158	6,824	19.4	325 (4.8)	198 (2.9)	1,093 (16.0)	180 (2.6)	5 (0.1)	—	4 (0.1)	171 (2.5)	3,269 (47.9)	1,493 (21.9)
猪名川町	7,610	302	4.0	11 (3.6)	4 (1.3)	13 (4.3)	18 (6.0)	0 (—)	80 (26.5)	—	9 (3.0)	60 (19.9)	102 (33.8)
神戸市	981,318	42,895	4.4	4,151 (9.7)	6,166 (14.4)	401 (0.9)	310 (0.7)	948 (2.2)	48 (0.1)	5 (0)	—	18,643 (43.5)	2,884 (6.7)
大阪市	2,547,316	100,414	0.4	6,543 (6.5)	3,431 (3.4)	1,001 (1.0)	207 (0.2)	143 (0.1)	122 (0.1)	4 (0)	4,373 (4.4)	—	……

第24表　阪神6市1町の主要流出先別流動人口

	人口 (A)	流出人口 (B)	$\frac{B}{A}\times100$	阪神圏流出人口 (C)									
				尼崎	西宮	伊丹	宝塚	芦屋	川西	猪名川	神戸	大阪	その他
				$\frac{C}{B}\times100$									
尼崎市	405,955	65,495	16.1	—	5,642 (8.6)	1,841 (2.8)	307 (0.5)	649 (1.0)	70 (0.1)	4 (0)	5,401 (8.2)	46,624 (71.2)	3,917 (6.0)
西宮市	262,608	64,088	24.4	10,039 (15.7)	—	711 (1.1)	1,137 (1.8)	1,262 (2.0)	58 (0.1)	0 (—)	11,401 (17.8)	35,520 (55.4)	2,727 (4.3)
伊丹市	86,455	17,431	20.2	5,579 (32.0)	862 (4.9)	—	245 (1.4)	131 (0.8)	170 (1.0)	0 (—)	1,222 (7.0)	7,812 (44.8)	1,185 (6.8)
宝塚市	66,491	16,972	25.5	1,166 (6.9)	2,549 (15.0)	786 (4.6)	—	156 (0.9)	206 (1.2)	6 (0)	1,643 (9.7)	8,475 (49.9)	1,600 (9.4)
芦屋市	57,050	17,857	31.3	1,026 (5.7)	1,977 (11.1)	76 (0.4)	91 (0.5)	—	9 (0)	1 (0)	6,378 (30.1)	8,35 (46.8)	577 (3.2)
川西市	41,916	11,881	28.3	837 (7.0)	269 (2.3)	2,164 (18.2)	485 (4.1)	24 (0.2)	—	5 (0)	262 (2.2)	5,027 (42.3)	2,718 (22.9)
猪名川町	7,178	847	11.8	69 (8.1)	13 (1.5)	120 (14.2)	44 (5.2)	2 (0.2)	168 (19.8)	—	12 (1.4)	181 (21.4)	232 (27.4)
神戸市	1,113,977	247,644	22.2	4,907 (2.0)	7,278 (2.9)	673 (0.3)	550 (0.2)	2,148 (0.9)	47 (0)	1 (0)	—	30,585 (12.4)	3,055 (1.2)
大阪市	3,011,563	102,011	3.4	10,067 (0.3)	4,250 (0.1)	1,291 (0)	423 (0)	340 (0)	176 (0)	5 (0)	5,791 (0.2)	—	……

（昭和30年10月1日　現在）

主なる流出先とその流出人口に対する割合								
1	位	比	2	位	比	3	位	比
大阪	31,430	75.8	神戸	3,644	8.6	西宮	3,067	7.2
〃	23,193	56.7	〃	7,305	17.9	尼崎	6,709	16.4
〃	5,197	48.5	尼崎	3,170	30.0	神戸	696	6.5
〃	5,222	55.0	西宮	1,249	13.1	〃	874	9.2
〃	6,620	51.1	神戸	3,739	28.8	西宮	1,158	8.9
〃	3,269	47.9	伊丹	1,093	16.0	豊中	362	5.3
川西	80	26.5	池田	75	24.8	大阪	60	19.9
大阪	21,572	50.3	西宮	6,166	14.4	尼崎	4,151	9.7
	……	—		……	—		……	—

（昭和35年10月1日　現在）

主なる流出先とその流出人口に対する割合								
1	位	比	2	位	比	3	位	比
大阪	46,624	71.2	西宮	5,642	8.6	神戸	5.401	8.2
〃	35,520	55.4	神戸	11,401	17.8	尼崎	10,039	15.7
〃	7,812	44.8	尼崎	5,579	32.0	神戸	1,222	7.0
〃	8,475	49.9	西宮	2,549	15.0	〃	1,643	9.7
〃	8,357	46.8	神戸	5,378	30.1	西宮	1,977	11.1
〃	5,027	42.3	伊丹	2,164	18.2	尼崎	827	7.0
〃	181	21.4	川西	168	19.8	伊丹	120	14.1
〃	30,585	12.4	西宮	7,278	2.9	尼崎	4,907	2.0
	……	—		……	—		……	—

国鉄と比べて利用者が約11倍あることにまず注意しておく必要がある。そしてその利用者は年々増加し，乗客は1日平均で，昭和31年度38,098人から昭和41年度には76,348人となっており，降客は37,580人から76,524人となっている。乗降客ともに約2倍増えたわけである。市内各駅は乗降客とも増加していることに原因しているが，各駅は必ずしも同じ延び方をしていない。平均すれば約2倍であるが，各駅でとくに延び方が目立つのは雲雀ケ丘花屋敷（約4倍強），売布神社（約4倍），宝塚（約2.5倍），逆瀬川（約2.5倍），山本（約2.3倍）などである。これらの駅は住宅地開発が進み，通勤・通学者の住宅地となったからである。

不定期客は定期客と比べると，その延び率は低い。全体的には2倍をかなり下回っている。2倍を越えたのは，約4倍の雲雀ケ丘花屋敷，売布神社ぐらいで，2倍近いのが清荒神，逆瀬川などで，あとはそう延びてはいない。なお絶対数では宝塚がずば抜けているのは，フアミリーランド（歌劇）の利用客が多いからであろう。

昼間人口（その四）——流入人口の質の一面

宝塚市へ流入する人口の正確な数字がつかめないが，さらに困難なことはどんな人々が流入しているのかという質の問題についてである。現在利用できるのは宝塚市の「昭和35年国勢調査地方集計結果—概数—」における昼間流入人口（従事産業別）だけである。この調査は極めて限られた狭い窓からのものであること，また昭和35年度のみであるということなどを考慮に入れておく必要がある。しかし流入人口の質の片鱗がうかがえるであろう。第28表がそれである。

流入人口4,807人のうち，通勤者4,104人，通学者 703人となっており，通勤者が通学者の6倍近い。また男女の比では，通勤者の場合は男3,157人，女1,650人で，男が約2倍であるが，通学者の場合は逆に男232人，女471人となっている。これは宝塚市内に聖心女学院や宝塚歌劇学校などの女子の学校があるためだといえよ

第25表　阪神6市1町の主要流出先別流動人口

	人口 (A)	流出人口 (B)		阪神圏流出人口 (C)									
				尼崎	西宮	伊丹	宝塚	芦屋	川西	猪名川	神戸	大阪	その他
				$\frac{C}{B}$ ×100									
尼崎市	500,990	94,953	11.5	—	8,946 (9.4)	3,324 (3.5)	714 (0.8)	1,098 (1.2)	164 (0.2)	5 (0)	8,029 (8.5)	61.034 (64.3)	9,509 (10.1)
西宮市	336,873	99,474	29.5	13,996 (14.1)	—	1,051 (1.1)	2,556 (2.6)	2,274 (2.3)	103 (0.1)	2 (0)	18,516 (18.6)	51,904 (52.2)	6,462 (6.5)
伊丹市	121,380	29,715	24.5	8,951 (30.1)	1,673 (5.6)	—	580 (2.0)	265 (0.9)	282 (0.9)	10 (0)	2,454 (8.3)	11,829 (39.8)	3,013 (10.1)
宝塚市	91,486	28,614	31.3	1,978 (6.9)	3,934 (13.7)	948 (3.3)	—	389 (1.4)	303 (1.1)	19 (0.1)	3,070 (10.7)	13,572 (47.4)	3,507 (12.3)
芦屋市	63,195	22,655	35.8	1,206 (5.3)	2,457 (10.8)	107 (0.5)	225 (1.0)	—	16 (0.1)	0 (0)	7,137 (31.5)	9,769 (43.1)	1,054 (4.7)
川西市	61,282	20,997	34.3	1,650 (7.9)	492 (2.3)	2,715 (12.9)	1,011 (4.8)	30 ((0.1)	—	100 (0.5)	426 (2.0)	8,512 (40.5)	5,794 (27.6)
猪名川町	7,038	1,319	18.7	62 (4.7)	22 (1.7)	136 (10.3)	62 (4.7)	5 (0.4)	276 (20.9)	—	4 (0.3)	203 (15.4)	531 (40.3)
神戸市	1,216,666	89,768	7.4	7,181 (8.0)	12,298 (13.7)	912 (1.0)	898 (1.0)	4,050 (4.5)	83 (0.1)	4 (0)	—	37,416 (41.7)	7,200 (8.0)
大阪市	3,156,222	176,253	5.6	11,169 (6.3)	5,816 (3.3)	1,935 (1.1)	944 (0.5)	656 (0.4)	284 (0.2)	11 (0)	7,241 (4.1)	—	…….

第27表　市内私鉄各駅の乗降客数

(1日平均)

年度	区分	総数	仁川 定期	仁川 定期外	小林 定期	小林 定期外	逆瀬川 定期	逆瀬川 定期外	宝塚南口 定期	宝塚南口 定期外	宝塚 定期	宝塚 定期外	清荒神 定期	清荒神 定期外	売布神社 定期	売布神社 定期外
31	乗客	38,098	5,631	2,676	1,991	832	3,484	2,045	2,048	1,664	3,897	4,078	1,171	1,149	802	392
	降客	37,580	5,415	2,613	1,877	775	3,608	2,169	2,155	1,732	3,741	3,910	1,169	1,152	790	392
32	乗客	39,563	5,589	2,566	1,694	814	3,835	2,270	2,095	1,631	4,258	3,982	1,364	1,319	918	416
	降客	38,572	4,954	2,543	1,611	707	3,782	2,089	2,224	1,781	4,037	3,909	1,406	1,309	936	430
33	乗客	45,135	6,699	2,497	2,083	781	4,899	2,571	2,529	1,783	5,035	4,386	1,724	1,431	1,034	445
	降客	44,503	6,262	2,536	1,980	681	5,080	2,712	2,416	1,914	4,847	4,320	1,729	1,365	1,064	459
34	乗客	47,800	8,021	2,821	2,354	791	5,219	2,232	2,541	1,604	5,402	4,493	1,852	1,501	1,128	416
	降客	46,534	7,568	2,770	2,099	676	5,375	2,398	2,612	1,625	5,039	4,319	1,820	1,421	1,148	422
35	乗客	50,952	7,985	2,931	2,477	800	5,657	2,477	2,627	1,778	5,660	4,986	1,787	1,803	1,248	547
	降客	49,998	7,342	2,944	2,412	821	5,535	2,572	2,835	1,881	5,434	4,869	1,850	1,599	1,273	568
36	乗客	56,726	8,752	3,054	2,663	884	6,128	2,946	2,757	1,921	6,461	5,525	2,074	1,634	1,305	651
	降客	54,417	7,794	3,108	2,411	829	6,289	3,168	2,764	1,896	6,222	5,158	2,088	1,467	1,381	674
37	乗客	61,315	8,689	3,158	2,892	1,045	6,466	3,263	2,705	1,971	7,060	5,917	2,039	1,839	1,535	941
	降客	60,620	8,232	3,322	2,691	1,064	6,440	3,411	2,802	1,931	6,593	5,886	2,056	1,787	1,785	949
38	乗客	68,539	8,742	3,334	3,163	1,425	7,245	3,818	2,753	2,163	7,411	8,453	2,267	1,633	2,064	1,182
	降客	67,931	8,443	3,396	2,920	1,310	7,369	4,089	2,801	2,200	6,966	8,074	2,352	1,647	2,346	1,302
39	乗客	73,272	9,354	3,559	3,385	1,521	7,753	4,075	2,946	2,308	7,930	9,023	2,426	1,743	2,209	1,262
	降客	72,622	9,035	3,625	3,124	1,399	7,885	4,365	2,997	2,348	7,454	8,619	2,517	1,758	2,511	1,390
40	乗客	73,931	9,827	3,759	3,778	1,268	8,398	3,759	2,846	1,976	8,576	6,507	2,678	1,926	2,648	1,160
	降客	73,089	9,242	3,876	3,432	1,220	8,405	3,991	2,959	2,237	8,054	6,730	2,420	1,849	2,777	1,395
41	乗客	76,348	9,707	3,482	3,844	1,334	9,037	3,749	2,834	2,498	9,103	6,430	2,585	2,261	3,127	1,300
	降客	76,524	10,204	3,632	3,566	1,302	9,187	4,139	2,933	2,497	8,541	6,496	2,348	2,129	3,256	1,510

（昭和40年10月1日　現在）

主たる流出先とその流出人口に対する割合							
1　位		比	2　位		比	3　位		比
大阪	61,034	64.3	西宮	8,946	9.4	神戸	8,029	8.5
〃	51,904	52.2	神戸	18.516	18.6	尼崎	13,996	14.1
〃	11,829	39.8	尼崎	8,951	30.1	神戸	2,454	8.3
〃	13,572	47.4	西宮	3,934	13.7	〃	3,070	10.7
〃	9,769	43.1	神戸	7,137	31.5	西宮	2,457	10.8
〃	8,512	40.5	伊丹	2,715	12.9	尼崎	1,650	7.9
川西	276	20.9	大阪	203	15.4	伊丹	136	10.3
大阪	37,416	41.7	西宮	12,298	13.7	尼崎	1,181	8.0
……		—	……		—	……		—

（1日平均）

中山		山山本		雲雀ケ丘花屋敷	
定期	定期外	定期	定期外	定期	定期外
1,111	914	1,377	1,085	1,296	455
1,088	891	1,378	1,057	1,228	440
1,204	1,106	1,382	1,054	1,471	595
1,180	1,189	1,358	1,143	1,397	587
1,367	944	1,584	1,063	1,792	488
1,348	973	1,546	1,039	1,769	463
1,399	1,056	1,655	891	1,824	600
1,392	1,040	1,905	602	1,768	544
1,433	1,226	1,851	1,055	2,014	610
1,411	1,226	1,813	1,093	1,961	559
1,508	1,288	2,027	1,086	3,103	959
1,452	1,246	1,937	1,104	2,572	857
1,491	1,147	2,207	1,276	4,133	1,541
1,588	1,197	1,972	1,233	4,070	1,611
1,599	1,372	2,425	1,557	4,420	1,513
1,522	1,361	2,341	1,564	4,366	1,562
1,712	1,464	2,595	1,662	4,730	1,615
1,628	1,453	2,505	1,669	4,672	1,668
1,765	1,823	2,898	1,588	5,015	1,736
1,832	1,877	2,700	1,534	4,756	1,803
1,892	1,369	3,194	1,694	5,295	1,713
1,803	1,304	3,053	1,639	5,141	1,844

う。

流入先は西宮市1,137人，神戸市550人，川西市485人，大阪市428人，三田市338人，尼崎市307人，伊丹市245人の順となっている。西宮市からの流入が圧倒的に多く，神戸市と大阪市からの流入の合計を上回っていることは注目に価する。また川西市や伊丹市からの流入もかなりあること，奥地の三田市からの流入も無視できないことなども宝塚市の在り方を示しているといえよう。

従事産業別に見てみると，サービス業がずば抜けて 1,492人であることは宝塚市の性格の一面を現わしているといえる。つぎに製造業が1,109人と多いことは東洋ベアリング，宝塚索導管その他の工場によってであろう。あとは急に落ちて，運輸通信業，建設業が521人，339人に続いている。こうした流入人口の従事産業別の割合からも宝塚市の性格がうかがえよう。

昼間人口（その五）——流入する娯楽人口

宝塚市は歌劇の街として知られている。阪急経営の宝塚歌劇を中心として，動物園，植物園などの施設があり，通称ファミリー・ランドの名で呼ばれている娯楽施設，それと併設されている宝塚ヘルスセンターもある。また武庫川をはさんで旅館街がある。ゴルフ場も市内に8ある。阪神競馬も年数回開催されている。安産の神さまとして知られている中山寺への参詣者も多いし，火の神，水商売の神として信仰されている清荒神も有名である。さらにまた武田尾温泉や武庫川渓谷や仁川ピクニック・センターを訪れる人たちも無視できない。

このように宝塚市は市外から多くの観光客・娯楽客を引きつけている。彼らは国鉄・私鉄，バス，自家用車などを利用して流入してくる。さきに示した国鉄・私鉄の利用者のうちにはこうした人びとも含まれているであろう。バス利用者や自家用車族も案外多いかもしれない。こうした観光客・娯楽客の殆んどは流入者であるといえる。

だからこうした流入者数を調べておくことも意味があろう。たださきの国鉄・私鉄の利用者と若干重複するであろうことを念頭においてお

第29表　宝塚観光地入込観光客数

	39年	40年	41年	42年
宝塚ファミリーランド（含む大劇場・動植物園）	人 5,011,000	人 4,805,000	人 4,721,000	人 2,637,000（大劇場入場者含まず）
宝塚温泉	576,000	711,000	766,000	734,000
武庫川渓谷（含む武田尾温泉）	60,000	80,000	81,000	164,000（千刈含む）
中山寺	214,000	233,000	238,000	480,000
清荒神	672,000	742,000	750,000	1,525,000
ヘルスセンター		650,896	5 2,145	558,897
阪神競馬場		728,645	367,856	878,090
合計		7,950,541	7,506,001	6,975,987

く必要がある。第29表はその一端を示したものである。

この数字はラウンドナンバーで極めて大体のことである。そのうえファミリーランドの場合（42年度）では大劇場入場者（年間約70万—100万人）は含まれていない。さらに市内にある8のゴルフ場入場者（一日平均150人と見て，150×8＝1200，年間約40万人）と会社の寮（約20軒）の利用者数も無視できない。とすると年間合計約700万～750万，一日平均2万人以上の人びとがこうした観光客・娯楽客として宝塚市に毎日流入していることになる。（もちろんゴルフ客が帰えりに旅館街を利用したり，大劇場の客と動植物園客としてダブルことも念頭に入れておかねばならない。）毎日2万以上の娯楽人口が流入すると，さきの国調による宝塚市の昼間人口が夜間人口より少ないということに対して疑問が出されることになる。宝塚市の場合は，昼間人口は夜間人口とほぼ等しいか，それを上回ることになる。

（四）

以上私は宝塚市の人口について，夜間人口と昼間人口の二つの側面から見てきた。資料などの関係で不充分な点の多いことはいうまでもない。こんごの努力で補いたい。

都市は生きている。それは生きている人間が都市を形成しているからである。宝塚市の場合でも，10万の人びとが絶えず流動しながら，その流動を通して，宝塚という都市を形成しているのである。「開かれた社会」であると同時に独自の都市社会を形成している。彼らは各人各様であり，各自が家庭と職場を持ち，さまざまな悩みや喜びを抱きながら，日常生活を営んでいるのである。単なる数字の背後にこうした生きた事実が存在していることを見逃がしてはならない。この背後にある生きた事実とは何であるか。この問に答えるのが都市社会学の課題である。私の宝塚研究の狙いもそこにある。後日に期したい。

第28表

昼間流動人口（市内流入）

（昭和35年度）

流入者の住居		合計 (1)＋(2)			通学 (1)			流動（従事産業別） 小計 (2)			農林業			鉱業			建設			製造			卸小売			金融保険			運輸通信			公益			サービス			公務			他		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
神戸市	東灘区	107	51	158	3	21	24	104	30	134	1		1				3		3	34	3	37	11	2	13				9	4	13	1		1	41	21	62	4		4			
	灘区	70	44	114	2	14	16	68	30	98							5		5	9	4	13	8	5	13	2	1	3	14	5	19	2		2	23	14	37	5	1	6			
	葺合区	26	9	35	1	4	5	25	5	30							4		4	3		3	3		3				8	1	9	1		1	4	4	8	2		2			
	生田区	28	13	41	4	7	11	24	6	30		1	1				1		1	4		4	1		1	1		1	3		3				13	5	18	1		1			
	兵庫区	91	35	126	4	11	15	87	24	111	1		1				10		10	33	8	41	1	1	2				21	4	25	1		1	18	11	29	2		2			
	長田区	23	14	37	1	4	5	22	10	32							3		3	9		9		2	2				2	1	3				5	7	12	3		3			
	須磨区	13	11	24	2	2	4	11	9	20							1		1	2	1	3							3		3				3	8	11	2		2			
	垂水区	13	2	15	1	2	3	12		12							2		2	5		5	2		2				1		1				2		2						
	計	371	179	550	18	65	83	353	114	467	2	1	3				29		29	99	16	115	26	10	36	3	1	4	61	15	76	5		5	109	70	179	19	1	20			
その他の兵庫県下	姫路市	10	1	11	6	1	7	4		4							1		1	1		1	1		1										1		1						
	尼崎市	201	106	307	14	44	58	187	62	249							26	1	27	60	12	72	14	3	17	6	4	10	15	5	20	4		4	39	36	75	23	1	24			
	明石市	12	4	16	4	2	6	8	2	10							1		1	2	1	3	1		1				1		1				3		3		1	1			
	西宮市	689	448	1,137	21	103	124	668	345	1,013				9		9	68	4	72	268	105	373	42	46	88	15	10	25	79	15	94	7	1	8	163	160	323	17	4	21			
	洲本市	1		1				1		1										1		1																					
	芦屋市	39	52	91	3	29	32	36	23	59	1		1							13	2	15	2		2	2		2	2	2	4	1		1	13	17	30	2	2	4			
	伊丹市	172	73	245	11	6	17	161	67	228	5	1	6	1		1	14	1	15	45	14	59	9	5	14	5	1	6	26	6	32				43	34	77	13	5	18			
	加古川市	3		3				3		3							1		1																			2		2			
	竜野市	1		1	1		1																																				
	西脇市		2	2		2	2																																				
	高砂市	2		2				2		2										1		1													1		1						
	川西市	289	196	485	45	32	77	244	164	408	11		11	4		4	19		19	41	11	52	15	8	23	3	1	4	49	13	62	1		1	90	127	217	11	4	15			
	小野市	1		1				1		1							1		1																								
	三田市	233	105	338	5	12	17	228	93	321	1		1				54	4	58	72	46	118	13	11	24	4	5	9	43	3	46				34	22	56	7	2	9			
	計	1,653	987	2,640	110	231	341	1,543	756	2 299	18	1	19	14		14	185	10	195	504	191	695	97	73	170	35	21	56	215	44	259	13	1	14	387	396	783	75	19	94			
	川辺郡椎名川町	36	8	44	1		1	35	8	43										7	1	8	3		3		1	1	14	1	15				8	5	13	3		3			
	美嚢郡吉川町	9	1	10				9	1	10							5		5										3	1	4				1		1						
	加東郡社町	1		1				1		1																			1		1												
	加東郡東条町	1	1	2		1	1	1		1																			1		1												
	神崎郡市川町		1	1					1	1																															1	1	
	〃 福崎町	1		1				1		1																																1	
	〃 香寺町	1		1				1		1																									1		1						
	加古郡稲美町	2		2				2		2										1		1	1		1																		
	宍粟郡山崎町		1	1					1	1																										1	1						
	〃 一宮町	8		8				8		8	8		8																														
	養父郡八鹿町	2		2				2		2							2		2																								
	氷上郡柏原町	5	1	6		1	1	5		5							2		2										2		2				1		1						
	〃 氷上町	4		4	2		2	2		2							1		1										1		1												
	〃 青垣町	3		3				3		3				3		3																											
	〃 春日町	3	1	4		1	1	3		3																			2		2							1		1			
	〃 山南町	7		7	1		1	6		6										3		3							2		2							1		1			
	〃 市島町	1		1				1		1										1		1																					
	多紀郡篠山町	35	5	40		1	1	35	4	39							8		8	12	2	14				1		1	5		5				9	2	11						
	〃 城東町	7	2	9		2	2	7		7							1		1	2		2							2		2				1		1	1		1			
	〃 多紀町	4	1	5		1	1	4		4				1		1				1		1	1		1													1		1			
	〃 西紀町	6		6				6		6							1		1	3		3							2		2												
	〃 丹南町	50	18	68		2	2	50	16	66							5		5	21	10	31	4	5	9				10		10				9	1	10	1		1			
	〃 今田町	6		6				6		6							1		1				1		1				4		4												
	計	192	40	232	4	9	13	188	31	219	8		8	4		4	26		26	51	13	64	10	5	15	1		1	49	2	51				30	9	39	8		8	1	1	2
兵庫県合計		2,216	1,206	3,422	132	305	437	2,084	901	2,985	28	2	30	18		18	240	10	250	654	220	874	133	88	221	39	22	61	325	61	386	18	1	19	526	475	1,001	102	20	122	1	1	2
府	大阪市	299	124	423	20	38	58	279	86	365	3		3	1		1	44	2	46	82	7	89	16	9	25	8		8	17	3	20	5		5	80	60	140	12	3	15	11	2	13
	その他の市	516	294	810	76	121	197	440	173	613	7		7				31		31	96	17	113	25	11	36	9	7	16	87	18	105	9	1	10	168	110	278	8	9	17			
	郡部	34	4	38	1	3	4	33	1	34							3		3	14		14	1	1	2				8		8	2		2	5		5						
大阪府計		849	422	1,271	97	162	259	752	260	1,012	10		10	1		1	78	2	80	192	24	216	42	21	63	17	7	24	112	21	133	16	1	17	253	170	423	20	12	32	11	2	13
京都府	京都市	69	18	87	2	4	6	67	14	81							2		2	11	1	12	8		8				1		1				45	13	58						
	その他の市郡	10	3	13				10	3	13							3		3										1		1				5	3	8	1		1			
京都府計		79	21	100	2	4	6	77	17	94							5		5	11	1	12	8		8				2		2				50	16	66	1		1			
滋賀県		1		1				1		1																									1		1						
奈良県		6		6	1		1	5		5										5		5																					
和歌山県		3	1	4				3	1	4							1		1	2		2														1	1						
岡山県		3		3				3		3							3		3																								
小計		13	1	14	1		1	12	1	13							4		4	7		7													1	1	2						
総計		3,157	1,650	4,807	232	471	703	2,925	1,179	4,104	38	2	40	19		19	327	12	339	864	245	1,109	183	109	292	56	29	85	439	82	521	34	2	36	830	662	1,492	123	32	155	12	3	15